

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-195	高等学校	国語科	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修の基本方針

1. 近現代のすぐれた論理的な文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 現代社会における問題を具体的に扱った教材を意識的に採録して、人間・環境・社会などさまざまな課題に向き合う態度を養うことができるように配慮した。
5. 我が国の言語文化の伝統を深く理解したうえで、言葉によつて的確に理解し、適切に交流する能力をはぐくみ、真に国際的な人間形成を促すことを期した。

## 2. 対照表

図書の内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のはたらきに理解を深め、語彙や表現を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した (第 1 号)。</li> </ul>	p. 39～45 p. 116～123
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによつて、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した (第 1 号)。</li> </ul>	p. 32～37
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コラム」を置き、情報の収集や、情報の妥当性や信頼性の吟味といった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した (第 1 号)。</li> </ul>	p. 68～69 p. 90～93 p. 177～179
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読みを広げる」を設定して、読書の幅を広げることができるようにした (第 1 号)。</li> </ul>	p. 22 p. 30 p. 38 p. 46 p. 67 p. 78 p. 89 p. 104 p. 124 p. 134 p. 143 p. 152 p. 163 p. 172
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した (第 2 号)。</li> </ul>	p. 16～21 p. 116～123
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済社会の持つ仕組み・制度について考察を促す題材を採録し、生徒が自身の社会生活について考えを深めることができるようにした (第 2 号)。</li> </ul>	p. 70～77 p. 144～151 p. 164～171
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士の会話を含む教材を用意し、生徒自らが主体性を発揮して学習に取り組むことを期した (第 2 号)。</li> </ul>	p. 180～184
第 I 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、情報化の進展、科学技術の発展など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した (第 3 号)。</li> </ul>	p. 125～133 p. 154～162 p. 164～171 p. 174～176
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした (第 3 号)。</li> </ul>	p. 180～184

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。</li> </ul>	<p>p. 23～29 p. 52～55 p. 136～142</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語論・比較文化論・芸術論を積極的に採録するなどして、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。</li> <li>・「読みを広げる」を設定して、言語文化に対する興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 48～51 p. 56～66 p. 80～88 p. 94～103 p. 106～109 p. 110～114</p> <p>p. 22 p. 30 p. 38 p. 46 p. 67 p. 78 p. 89 p. 104 p. 124 p. 134 p. 143 p. 152 p. 163 p. 172</p>
第Ⅱ部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉のはたらきに理解を深め、語彙や表現を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した（第1号）。</li> <li>・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。</li> <li>・「読みを広げる」を設定して、読書の幅を広げることができるようにした（第1号）。</li> </ul>	<p>p. 197～207 p. 234～239 p. 240～246</p> <p>p. 186～195</p> <p>p. 196 p. 208 p. 218 p. 232 p. 256 p. 270 p. 281 p. 292 p. 307 p. 320 p. 335 p. 352 p. 360 p. 380</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した（第2号）。</li> <li>・生徒同士の会話を含む教材を用意し、生徒自らが主体性を発揮して学習に取り組むことを期した（第2号）。</li> </ul>	<p>p. 219～231 p. 282～291</p> <p>p. 386～390</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、情報化の進展、科学技術の発展、消費行動のあり方など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。</li> <li>・学校生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした（第3号）。</li> </ul>	<p>p. 248～255 p. 257～269 p. 294～306 p. 308～319 p. 322～334 p. 336～351 p. 354～359 p. 361～379 p. 382～385 p. 386～390</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。</li> </ul>	<p>p. 210～217 p. 219～231 p. 272～280</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語論を積極的に採録して、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。</li> <li>・「読みを広げる」を設定して、言語文化に対する興味・関心を喚起できるようにした（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 197～207</p> <p>p. 196 p. 208 p. 218 p. 232 p. 256 p. 270 p. 281 p. 292 p. 307 p. 320 p. 335 p. 352 p. 360 p. 380</p>

表現編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活や学術的な学習の基礎となる知識や教養を身に付け、自分の考えや事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。</li> <li>・情報を整理したり、整理した情報を適切に活用したりといった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した（第1号）。</li> </ul>	p. 392～400 p. 402～416 p. 404～411
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。</li> </ul>	p. 392～400 p. 402～416
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係とペルソナという、生徒自身の社会生活に深く関わる題材を扱った文章を課題文とすることで、他者と協働的な関係性を築く態度について考察を深められるよう配慮した（第3号）。</li> </ul>	p. 402～416
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化問題という、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした。（第4号）。</li> </ul>	p. 392～400
	資料編・口絵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現に関する実用的な資料を採録し、実生活や学術的な学習の基礎となる知識や教養を身に付けることができるようにした（第1号）。</li> <li>・「評論主要テーマ一覧」「評論キーワード一覧」「評論キーパーソン一覧」を用意し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国や他国の言語文化に対する興味・関心を喚起できるよう配慮した（第1号・第5号）。</li> </ul>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、第I部、第II部の各教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
107-195	高等学校	国語科	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ①単元構成・教材選定

- ・「現代の国語」および「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、実社会や学術的な学習に必要な国語の知識や技能を効果的に身につけるため、全体を「第Ⅰ部」「第Ⅱ部」と「表現編」で構成し、論理的・批判的な思考力・判断力を育成するための学びと、表現力を育成するための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・「第Ⅰ部」「第Ⅱ部」は、教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう考慮して、評論、および、実用的な文章を取り上げた。評論はテーマを基本とした単元構成にして、教材どうしが有機的な繋がりをもって学習できることを意図した。
- ・「表現編」は、「A 書くこと」に関わる教材を取り上げ、「論理国語」の目標に掲げられている、「他者との関わりの中で伝え合う力を高め」るための学びを実現することを意図した。
- ・「B 読むこと」の教材選定にあたっては、生徒の発達段階や「現代の国語」「言語文化」との接続にも配慮しつつ、高校生が身につけておくべき幅広い知識を提供し得る作品をさまざまな分野から厳選し、人間や社会に対する視野や考えがさらに広がり深まるように教材を配列した。
- ・評論単元の扉および「表現編」の教材の冒頭に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。  
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

### ②[知識及び技能]への対応

- ・作品の中で押さえておくべき熟語、慣用句、四字熟語等を「注意すべき語句」として脚注の左に示し、必要な語句を効果的に学習できるよう配慮した。
- ・「言葉の手引き」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・情報と情報との関係については、「B 読むこと」の内容と関連づけながら「学習の手引き」で理解を深めるとともに、「読解のレッスン(一)・(三)」において、主張と根拠、具体と抽象といった情報と情報との関係や、論理展開の基本となる推論について基礎的な知識を得られるようにした。
- ・巻末に「資料編」、巻頭と巻末に「口絵」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。
- ・作品ごとに作者解説を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、評論に関しては「読みを広げる」を設けて、読書の幅を広げることができるように意図した。

### ③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、「言語活動」を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを旨とした。教材として取り上げる項目は、「言語活動例」に示された内容に即して選定した。
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
  - \* 「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所、内容理解を確認する目的で示した。
  - \* 「学習の手引き」は、文章全体の構成の把握、構成を支えている論理(各段落のはたらき、段落相互の関係、論展開など)の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈および評価という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
  - \* 「言語活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもとにして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる「言語活動」を行うことを主旨として設定した。
- ・「言語活動の手引き」とは別に、「B 読むこと」の「言語活動」として、関連あるいは共通するテーマについて書かれた二つの文章教材を用意し、それぞれの書き手の意図を捉えながら必要な情報を関係づけ、多面的・多角的な視点から自分の考えを深めることができるようにした。
  - p. 80「手の変幻」、p. 87「ミロのビーナスにみる侘び寂び」
  - p. 106「科学者と芸術家」、p. 110「自然と科学と、芸術のお話」
- ・実用的な文章は、実用と活用に重点を置いて、「言語活動」を主体とした課題設定を行った。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容								該当箇所	配当時数		
		知識及び技能			思考力・表現力・判断力等				書くこと		読むこと	計	
章	単元	教材	(1)	(2)	(3)	(1)書くこと	(2)書くこと	(1)読むこと		(2)読むこと			
第Ⅰ部	評論(一) 豊かさを捉え直す	「利他」とは何か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・カ	ア	p.16-p.21	1	2	3
		[読みを広げる]			ア					p.22			
		エディブル・プラネット	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.23-p.29	1	2	3
		[読みを広げる]※以下12箇所			ア					p.30			
	評論(二) 他者と向き合う	自他の「間あい」	イ・エ	ア・イ		ア・ウ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.32-p.37	1	2	3
		対話の意味	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・オ・カ・キ	ア・ウ・エ	p.39-p.45	1	2	3
	読解のレッスン(一) 論理を見いだす	制作の自由と制約	エ	ア・イ				ア・カ		p.48-p.51		1	1
		共感と道徳的行為	エ	ア・イ				ア・カ		p.52-p.54		1	1
	評論(三) 言語文化を解きほぐす	オノマトペとは何か	ア・イ・エ	ア・イ		ウ・オ・カ	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.56-p.66	1	3	4
		[コラム]文章を要約するには	エ	ア・イ						p.68-p.69			
		越境する動物がもたらす贈り物	イ・エ	ア・イ		ア・イ	ア・ウ・エ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ・オ	p.70-p.77	1	2	3
	評論(四) 芸術を読み直す	手の変幻	イ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ・オ	ア・イ・エ	ア・ウ・エ・オ・カ・キ	ア・オ	p.80-p.86	1	3	4
		[コラム]資料を集めて分析するには		イ						p.90-p.93			
		反アート入門	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.94-p.103	1	3	4
	読解のレッスン(二) 文章を読み比べる	科学者と芸術家		ア・イ				ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・エ	p.106-p.109		1	1
		自然と科学と、芸術のお話		ア・イ				ア・イ・ウ・オ・カ・キ	ア・エ	p.110-p.114		2	2
	評論(五) 変化に対応する	「お母さん」の用法	ア・イ・エ	ア・イ		ア・ウ	ア・ウ・エ	ア・エ・カ	ア・ウ・オ	p.116-p.123	1	3	4
		技術とどうつき合うか	イ・エ	ア・イ		ア・イ	ア・エ	ア・カ	ア・オ	p.125-p.133	1	3	4
	評論(六) 多様性を見つめる	なぜ多様性が必要か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.136-p.142	1	3	4
		働かないアリに意義がある	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア	p.144-p.151	1	3	4
評論(七) 未来を構想する	生体認証技術の発展と未来	イ・エ	ア・イ		ア・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.154-p.162	1	3	4	
	AI時代の社会と法	イ・エ	ア・イ		イ・ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・カ	ア・イ	p.164-p.171	1	3	4	
実用文(一) 情報を使いこなす	情報技術の活用に関するデータと文章を読み比べる				イ・エ	ア	イ・オ・キ	ア・エ	p.174-p.176	1	1	2	
	[コラム]グラフ・図表を読み取り、活用するには		イ						p.177-p.179				
	ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する				ウ・オ・カ	ア	イ・エ・オ	ア・エ	p.180-p.184	2	1	3	
評論(一) 世界を捉え返す	まなざしのデザイン	イ・エ	ア・イ		エ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.186-p.195	1	2	3	
	[読みを広げる]			ア					p.196				
	言語が見せる世界	ア・イ・エ	ア・イ		ア・イ・カ	ア・ウ	ア・ウ・カ	ア・ウ	p.197-p.207	1	3	4	
	[読みを広げる]※以下12箇所			ア					p.208				
評論(二) 人間中心主義を問う	人間という中心と、それよりも(軽い命)	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.210-p.217	1	2	3	
	マルチスピーシーズの示す未来	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・オ・カ・キ	ア・ウ・エ	p.219-p.229	1	3	4	
読解のレッスン(三) 推論を習得する	推論とは何か		ウ				ア・ウ・オ・カ	ア	p.234-p.239		1	1	
	帰納法のワナー一般化に対する疑問		ウ				ア・ウ・オ・カ	ア	p.240-p.246		2	2	
評論(三) 現代社会を読み解く	コミュニティ空間としての都市	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・イ・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.248-p.255	1	2	3	
	「第二の身体」としてのメディアと技術	イ・エ	ア・イ		ア・ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.257-p.269	1	3	4	
評論(四) 倫理を問い直す	いのちのかたち	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・カ	ア・ウ	p.272-p.280	1	3	4	
	ケアの倫理	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.282-p.291	1	3	4	
評論(五) 未知に向き合う	リスク社会とは何か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ	p.294-p.306	1	3	4	
	コスモポリタニズムの可能性	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・エ・カ	ア・ウ	p.308-p.319	1	3	4	
評論(六) 社会の仕組みを考える	目に見える制度と見えない制度	イ・エ	ア・イ		ア	ア・ウ	ア・カ	ア・ウ・オ	p.322-p.334	1	3	4	
	「である」ことと「する」こと	イ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ・オ	ア・ウ・エ	ア・エ・カ	ア・ウ・オ	p.336-p.351	1	3	4	
評論(七) 文明を批評する	漫罵	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ウ・エ・カ	ア・ウ	p.354-p.359	1	3	4	
	現代日本の開化	イ・エ	ア・イ		ウ・エ	ア・ウ	ア・ウ・エ・オ・カ・キ	ア・ウ・エ	p.361-p.379	1	3	4	
実用文(二) 規則の意味を解釈する	法に関わる文章を読み比べる		ア・イ				イ・エ・オ	ア・エ	p.382-p.385		2	2	
	生徒会に提出する提案書の内容を検討する		ア・イ		ウ・エ・オ・カ	ア	イ・エ・オ	ア・エ	p.386-p.390	1	1	2	
表現編	レポートを書く	テーマを決めてレポートを書く	ウ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ・オ	ア・イ・エ			p.392-p.397	5		5
		書いたレポートを評価・分析して修正する	ウ・エ			イ・カ	イ・ウ			p.398-p.400	3		3
	小論文を書く	小論文の基本的な書き方を理解する	ウ・エ			イ・ウ・エ・オ	ア			p.402-p.403	2		2
		資料を読んで情報を整理する	ウ・エ	ア・イ		ア・イ・ウ・エ	ア・イ	ア	ア	p.404-p.409	3	1	4
		整理した情報をもとに、小論文を書く	ウ・エ			ウ・エ・オ	ア・イ			p.410-p.411	2		2
書いた小論文を評価・分析して修正する	ウ・エ			イ・ウ・エ・オ・カ	イ・ウ			p.412-p.416	3		3		
										50	90	140	



音訓一覧表

有沙	為す	以つて	越後妻有	観る	博司	伊勢武史	止む	謎理的	容れる	単義的	思考	実験	技巧	小鹿田	拓く	均す	宗悦	眼	四方田	温司	克彦	氷つた	卓行	恭則	節	象づくる	お人好し	象る	喩え	贈り物	友紀	喜美	相良	浩二郎	淑子	英雄	猛	清一	信男	銀杏	出雲	戸谷洋志	菩提心
ありさ	なす	もつて	えちごつまり	みる	ひろし	いせたけし	やむ	パラドクシカル	いれる	ユニーク	ゲダンケン	エキスペリメント	テクニク	おんた	ひらく	ならず	むねよし	め	よもた	あつし	かつひこ	こおつた	たかゆき	たかのり	たかし	かたちづくる	おひとよし	かたどる	たとえ	ギフト	ゆき	きみ	さがら	こうじろう	いつこ	ひでお	たけし	きよかず	のぶお	いちよう	いずも	とやひろし	ぼだいしん
125	119	119	111	111	111	110	108	108	108	108	107	107	107	104	103	98	95	95	89	89	88	85	80	78	78	78	72	72	71	70	67	56	46	46	46	39	38	32	30	25	24	22	22
成員	存在性	良和	河野	達博	清水晶子	抛る	英敬	看取る	愛でる	艶かしい	適う	謙介	全世界村	還る	巨大機械	掌	千枝	良典	日蝕	孝男	崇仁	克巳	道夫	信岡	辛い	修	初期設定	実在性	茂樹	囚われる	武蔵野	独歩	色	羽生善治	茂生	動的	虹彩	漁る	始	長谷川	中屋敷均	頑な	お腹
メンバー	ありかた	よしかず	こうの	たつひろ	しみずあきこ	よる	ひでたか	みとる	めでる	なまめかしい	かなう	けんすけ	グローバル・ビレッジ	かえる	メガマシ	てのひら	ちえ	よしのり	につしよく	たかお	たかひと	かつみ	みちお	のぶおか	つらい	おさむ	デフォル	リアリティ	しげき	とらわれる	むさしの	どつぽ	カラー	はぶよしはる	しげお	モバイル	こうさい	あさる	はじめ	はせがわ	なかやしきひとし	かたくな	おなか
324	322	320	308	307	292	283	281	277	274	274	273	270	270	265	264	261	250	248	243	232	223	219	218	218	212	210	206	205	197	196	196	196	190	172	172	156	154	152	152	144	143	137	137
煙草	敷島	緯	経	身体	国男	群	及	木下	待合	向側	芳年	如かず	寧ろ	三十一文字	須らく	然らざれば	暇	負む	誇負	出でんや	能く	如く	彼等	采女	築地	識る	能わず	自づから	風呂敷	前垂	紋付	漸く	東	宗介	弥縫	巖太郎	真男	反響	愛の手紙	形式	現実的	仮構的	所有
たばこ	しきしま	よこいと	たていと	からだ	くにお	むれ	および	きのした	まちあい	むこうがわ	よしとし	しかず	むしろ	みそひともし	すべからく	しからざれば	いとま	たのむ	プライド	いでんや	よく	ごとく	かれら	うねめ	つきじ	しる	あたわず	おのづから	ふるしき	まえだれ	もんつき	ようやく	あずま	むねすけ	びほう	まさお	こだま	ラブレター	スタイル	リアル	フィクショナル	もの	
366	366	363	363	362	360	360	360	360	360	360	358	358	358	357	357	357	356	356	356	356	356	356	356	354	354	354	354	354	354	354	354	352	352	347	336	336	331	331	331	327	327	324	324

音訓一覧表

漢字	音訓	ページ
冠	かむらしても	367
否応なしに	いやおうなしに	368
新羅	しらぎ	368
百濟	くだら	368
高句麗	こうくり	368
検して	けみして	371
咽喉	のど	372
食客	いそうろう	373
背	せな	375
法螺	ほら	376
起つ	たつ	376
吾輩	わがはい	378
常寿	じょうじ	382
河合	かわい	405
博明	ひろあき	405
術	すべ	420
雅士	まさし	420
樹	たつる	420
神輿	みこし	421
席巻	せつけん	421
圭三郎	けいざぶろう	422
鶴見	つるみ	424
立花隆	たちばなたかし	424
正博	まさひろ	424

# 出 典 一 覧 表

〔国語教材〕

申請図書			出 典					備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
16～20	「利他」とは何か	国語教材	「利他」とは何か(第9刷)	5、19、50～56	伊藤亜紗他	集英社	2021年	
23～28	エディブル・プラネット	国語教材	『ビッグイシュー日本版』(470号)	8～10	藤原辰史	ビッグイシュー日本	2024年1月	
32～36	自他の「間あい」	国語教材	「聴く」ことの力 臨床哲学試論(第1刷)	91～96	鷲田清一	筑摩書房	2015年	
39～44	対話の意味	国語教材	対話をデザインする——伝わりとはどういうことか(第1刷)	19～24、29～31	細川英雄	筑摩書房	2019年	
48～50	制作の自由と制約	国語教材	芸術の中動態——受容／制作の基層(初版第1刷)	161～164	森田亜紀	萌書房	2013年	
52～53	共感と道徳的行為	国語教材	共感の正体——つながりを生むのか、苦しみをもたらすのか(初版)	27～29	山竹伸二	河出書房新社	2022年	
56～65	オノマトペとは何か	国語教材	言語の本質(3版)	249、3～17	今井むつみ・秋田喜美 矢野智司他	中央公論新社	2023年	
70～76	越境する動物がもたらす贈り物	国語教材	環境人文学Ⅱ 他者としての自然(初版)	55～61		勉誠出版	2017年	
80～85	手の変幻	国語教材	手の変幻(第1刷)	11～14	清岡卓行	美術出版社	1966年	
87～88	ミロのビーナスにみる侘び寂び	国語教材	ルーヴル美術館の楽しみ方(第11刷)	74～77	赤瀬川原平	新潮社	1997年	
94～102	反アート入門	国語教材	反アート入門(第1刷)	268～271、273～276	榎木野衣	幻冬舎	2010年	
106～109	科学者と芸術家	国語教材	寺田寅彦全集 第五巻	265～269	寺田寅彦	岩波書店	1997年	
110～113	自然と科学と、芸術のお話	国語教材	Webナショジオ 森で想う環境のこと・人のこと 第10回 自然と科学と、芸術のお話 ( <a href="https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/427954/090400006/">https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/web/15/427954/090400006/</a> )		伊勢武史	ナショナルジオグラフィック	2015年9月8日	
116～122	「お母さん」の用法	国語教材	いつもの言葉を哲学する(第1刷)	208～216	古田徹也	朝日新聞出版	2021年	
125～132	技術とどうつき合うか	国語教材	AI社会の歩き方 人工知能とどうつき合うか(第1版 第1刷)	1、154～161	江間有沙	化学同人	2019年	
136～141	なぜ多様性が必要か	国語教材	新版 動的平衡2 生命は自由になれるのか(第2刷)	76～84	福岡伸一	小学館	2018年	
144～150	働かないアリに意義がある	国語教材	働かないアリに意義がある(初版第3刷)	73～81	長谷川英祐	山と溪谷社	2024年	
154～161	生体認証技術の発展と未来	国語教材	世界思想(2020年春号、通巻第47号)	66～70	高野麻子	世界思想社	2020年4月	
164～170	AI時代の社会と法	国語教材	AIの時代と法(第1刷)	14～21	小塚荘一郎	岩波書店	2019年	

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
186～194	まなざしのデザイン	国語教材	まなざしのデザイン——〈世界の見方〉 を変える方法（第1刷）	11～23	ハナムラチカ ヒロ	NTT出版	2017年	
197～206	言語が見せる世界	国語教材	語りえぬものを語る（第1刷）	398～407	野矢茂樹	講談社	2011年	
210～216	人間という中心と、それよりも （軽い命）	国語教材	動物に魂はあるのか——生命を見つめる 哲学（第1刷）	3～9	金森修	中央公論新社	2012年	
219～228	マルチスピーシーズの示す未来	国語教材	これからの時代を生き抜くための文化人 類学入門（初版第1刷）	228～229、232 ～242	奥野克己	辰巳出版	2022年	
230～231	「存在論的デザイン」とは何か	国語教材	コ・デザイン——デザインすることをみ んなの手に（初版第1刷）	281～284	上平崇仁	NTT出版	2020年	
234～239	推論とは何か	国語教材	それゆけ！ 論理さん（初版第1刷）	110～118	仲島ひとみ	筑摩書房	2018年	
240～245	帰納法のワナ——一般化に対する 疑問	国語教材	データはウソをつく——科学的な社会調 査の方法（初版第12刷）	16～19、25～31	谷岡一郎	筑摩書房	2018年	
248～254	コミュニティ空間としての都市	国語教材	持続可能な医療——超高齢化時代の科 学・公共性・死生観（第1刷）	141～148	広井良典	筑摩書房	2018年	
257～268	「第二の身体」としてのメディア と技術	国語教材	社会学入門一歩前（初版）	91～101	若林幹夫	河出書房新社	2023年	
272～279	いのちのかたち	国語教材	理性の探求（第1刷）	160～167	西谷修	岩波書店	2009年	
282～290	ケアの倫理	国語教材	ケアの倫理——フェミニズムの政治思想 （第4刷）	2、235～246、 269	岡野八代	岩波書店	2024年	
294～305	リスク社会とは何か	国語教材	不可能性の時代（第1刷）	128～139	大澤真幸	岩波書店	2008年	
308～318	コスモポリタニズムの可能性	国語教材	境界の現象学——始原の海から流体の存 在論へ（初版第1刷）	172～181	河野哲也	筑摩書房	2014年	
322～333	目に見える制度と見えない制度	国語教材	哲学の現在——生きること考えること （第3刷）	164～179	中村雄二郎	岩波書店	1977年	
336～350	「である」ことと「する」こと	国語教材	日本の思想（第5刷）	154～160、163 ～166、171～ 173、175～179	丸山真男	岩波書店	1962年	
354～358	漫罵	国語教材	透谷全集 第二巻（第13刷）	324～327	北村透谷	岩波書店	1970年	
361～378	現代日本の開化	国語教材	漱石全集 第十六巻（第1刷）	420～421、423 ～440	夏目金之助	岩波書店	1995年	
382～383	資料A 宍戸常寿「法の適用」	国語教材	法解釈入門 第2版（第2版第1刷）	2～4	宍戸常寿他	有斐閣	2020年	
404～405	課題文	国語教材	「さみしさ」の力——孤独と自立の心理 学（初版第1刷）	92～96	榎本博明	筑摩書房	2020年	

※上記のもの以外については、編集委員による書き下ろしである。

[図・地図]

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
174	生体認証の利用に対する抵抗感の有無	図版	生体認証に関する意識調査		日立製作所		2022年2月1日	左の出典をもとに作製
174	顔認証に対して抵抗を感じる場合	図版	顔認証に関する調査		アイブリッジ株式会社		2023年9月28日	左の出典をもとに作製
177	年齢層別交通事故死者数と割合	図版	令和6年版交通安全白書		内閣府		2024年	左の出典をもとに作製
179	大卒者の就職後3年以内離職率の推移	図版	新規学卒就職者の離職状況(令和3年3月卒業者)を公表します 別紙1		厚生労働省		2024年	左の出典をもとに作製
249	先進諸国における社会的孤立の状況	図版	持続可能な医療——超高齢化時代の科学・公共性・死生観(第1刷)	143	広井良典	筑摩書房	2018年	左の出典をもとに作製
396	図2 夫婦の平均理想子供数・平均予定子供数・完結出生児数	図版	第16回出生動向基本調査		国立社会保障・人口問題研究所		2023年	左の出典をもとに作製
396	図3 夫婦が理想の数の子供を持たない理由(複数回答・上位5つ)	図版	第16回出生動向基本調査		国立社会保障・人口問題研究所		2023年	左の出典をもとに作製
396	表3 大学の1年間の授業料の変化	図版	国公立大学の授業料等の推移		文部科学省		2024年	左の出典をもとに作製
397	図1 人口構造の推移	図版	統計トピックスNo. 141		総務省統計局		2024年	左の出典をもとに作製
397	表1 平均初婚年齢	図版	令和5年(2023)人口動態統計月報年計(概数)の概況		厚生労働省		2024年	左の出典をもとに作製
397	表2 第一子出生時の母親の平均年齢	図版	令和5年(2023)人口動態統計月報年計(概数)の概況		厚生労働省		2024年	左の出典をもとに作製

※上記以外のものについては自社で作成。

出典一覧表

〔写真〕

申請図書			出典				備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返①	(「エディブル・プラネット」イメージ画像)	写真						PIXTA 95590880
見返①	呉須鉄絵撫子文石皿	写真						日本民藝館
見返①	伊万里色絵皿	写真						アマナイメーجز 26092001349
見返②	(「『お母さん』の用法」イメージ画像 仕事をする男性)	写真						Gettyイメージズ 1370273960
見返②	(「『お母さん』の用法」イメージ画像 家事育児をする男性)	写真						Gettyイメージズ 490811927
見返②	(「なぜ多様性が必要か」イメージ画像)	写真						Gettyイメージズ 1494331117
見返②	(「技術とどうつき合うか」イメージ画像)	写真						Gettyイメージズ 1248228521
見返②	(「AI時代の社会と法」イメージ画像)	写真						アフロ 22792537
見返③	(「まなざしのデザイン」イメージ画像)	写真						ハナムラチカヒロ
見返③	(「マルチスピーシーズの示す未来」イメージ画像)	写真						Gettyイメージズ 505648742
見返③	(日本橋魚市繁栄図)	写真						国立国会図書館デジタル化資料
口絵④	「ケアの倫理」イメージ画像	写真						アフロ 124211027
口絵④	「リスク社会とは何か」イメージ画像	写真						サイネットフォト IBR111715446
口絵④	『鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図』	写真	『鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図』		安藤徳兵衛(三代歌川広重)	あらい亀吉	1882年	国立国会図書館デジタル化資料
20	伊藤亜紗	写真						伊藤亜紗
20	『「利他」とは何か』	写真	『利他とは何か』	表紙	伊藤亜紗	集英社	2021年	自社で撮影
22	『目の見えない人は世界をどう見ているのか』	写真	『目の見えない人は世界をどう見ているのか』	表紙	伊藤亜紗	光文社	2015年	自社で撮影
22	『はじめての利他学』	写真	『はじめての利他学』	表紙	若松英輔	NHK出版	2022年	自社で撮影
22	『生きることは頼ること』	写真	『生きることは頼ること』	表紙	戸谷洋志	講談社	2024年	自社で撮影
24	桑の実	写真						アマナイメーجز 32203013060
24	いちじく	写真						PIXTA 24673492
24	アケビ	写真						PIXTA 5751501
24	ワラビ	写真						PIXTA 38763974
24	ゼンマイ	写真						時事通信社 8288277
24	よもぎ	写真						サイネットフォト YKA110013918
24	銀杏(ぎんなん)	写真						アマナイメーجز 2913000900
26	アマルテア・セン	写真						サイネットフォト JGW76B
27	フキノトウ	写真						PIXTA 74546299
27	フェリパ・フェルナンデス＝アルメスト	写真						Gettyイメージズ 518913778
28	藤原辰史	写真						共同通信社 2023101909470
30	『歴史の肩拾い』	写真	『歴史の肩拾い』	表紙	藤原辰史	講談社	2022年	自社で撮影
30	『ゼロからの「資本論」』	写真	『ゼロからの「資本論」』	表紙	斎藤幸平	NHK出版	2023年	自社で撮影
30	『「共食」の社会史』	写真	『「共食」の社会史』	表紙	原田信男	藤原書店	2020年	自社で撮影
35	ウロボロスの蛇	写真						サイネットフォト PST110003940
36	寺山修司	写真						ユニフォトプレス KDO2009072700170
37	鷺田清一	写真						鷺田清一
37	『「聴く」ことの力——臨床哲学試論』	写真	『「聴く」ことの力——臨床哲学試論』	表紙	鷺田清一	筑摩書房	2015年	自社で撮影
38	『あいだ』	写真	『あいだ』	表紙	木村敏	筑摩書房	2005年	自社で撮影
38	『わかりやすいはわかりにくい？』	写真	『わかりやすいはわかりにくい？』	表紙	鷺田清一	筑摩書房	2010年	自社で撮影
38	『人類哲学序説』	写真	『人類哲学序説』	表紙	梅原猛	岩波書店	2013年	自社で撮影
44	細川英雄	写真						細川英雄
44	『対話をデザインする』	写真	『対話をデザインする』	表紙	細川英雄	筑摩書房	2019年	自社で撮影
46	『対話のレッスン』	写真	『対話のレッスン』	表紙	平田オリザ	講談社	2015年	自社で撮影
46	『対話する社会へ』	写真	『対話する社会へ』	表紙	嵯峨淑子	岩波書店	2017年	自社で撮影
46	『「よく見る人」と「よく聴く人」』	写真	『「よく見る人」と「よく聴く人」』	表紙	広瀬浩二郎、相良啓子	岩波書店	2023年	自社で撮影
56	五味太郎	写真						朝日新聞社 P200329000103
58	マーク・ディングemanセ	写真						アフロ 276661970
61	チャールズ・サンダース・パース	写真						サイネットフォト ABM110353895
65	今井むつみ	写真						今井むつみ
65	秋田喜美	写真						秋田喜美
65	『言語の本質』	写真	『言語の本質』	表紙	今井むつみ、秋田喜美	中央公論新社	2023年	自社で撮影
67	『英語独習法』	写真	『英語独習法』	表紙	今井むつみ	岩波書店	2020年	自社で撮影
67	『オノマトへの認知科学』	写真	『オノマトへの認知科学』	表紙	秋田喜美	新曜社	2022年	自社で撮影
67	『子どもに学ぶ言葉の認知科学』	写真	『子どもに学ぶ言葉の認知科学』	表紙	広瀬友紀	筑摩書房	2022年	自社で撮影
72	宮沢賢治	写真						日本近代文学館 P0002873
76	アンデルセン	写真						アフロ 230638140
77	矢野智司	写真						矢野智司
77	『環境人文学Ⅱ 他者としての自然』	写真	『環境人文学Ⅱ 他者としての自然』	表紙	野田研一、山本洋平他	勉誠出版	2017年	自社で撮影

申請図書		出典				備考		
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等		発行者	発行年次等
78	『大人が子どもにおくりとどける40の物語』	写真	『大人が子どもにおくりとどける40の物語』	表紙	矢野智司	ミネルヴァ書房	2014年	自社で撮影
78	『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』	写真	『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』	表紙	内山節	講談社	2007年	自社で撮影
78	『みんなの民俗学 ヴァナキュラーってなんだ？』	写真	『みんなの民俗学 ヴァナキュラーってなんだ？』	表紙	島村恭則	平凡社	2020年	自社で撮影
81	ミロのビーナス	写真						ユニフォトプレス
81	ミロのビーナスの復元案(上)	写真						ユニフォトプレス
81	ミロのビーナスの復元案(下)	写真						ユニフォトプレス
83	人柱像	写真						PIXTA
85	清岡卓行	写真						清岡卓行
85	『手の変幻』	写真	『手の変幻』	表紙	清岡卓行	講談社	1990年	自社で撮影
89	『かわいい論』	写真	『かわいい論』	表紙	四方田犬彦	筑摩書房	2006年	自社で撮影
89	『戦争がつくる女性像』	写真	『戦争がつくる女性像』	表紙	若桑みどり	筑摩書房	2000年	自社で撮影
89	『虹の西洋美術史』	写真	『虹の西洋美術史』	表紙	岡田温司	筑摩書房	2012年	自社で撮影
95	柳宗悦	写真						共同通信社
97	「民藝」の品々(日本民藝館蔵)	写真						日本民藝館
97	「民藝」の品々(日本民藝館蔵)	写真						日本民藝館
97	「民藝」の品々(日本民藝館蔵)	写真						日本民藝館
97	「民藝」の品々(日本民藝館蔵)	写真						日本民藝館
103	榎木野衣	写真						朝日新聞社
103	『反アート入門』	写真	『反アート入門』	表紙	榎木野衣	幻冬舎	2016年	自社で撮影
104	『民藝とは何か』	写真	『民藝とは何か』	表紙	柳宗悦	講談社	2006年	自社で撮影
104	『リーチ先生』	写真	『リーチ先生』	表紙	原田マハ	集英社	2019年	自社で撮影
104	『感性は感動しない』	写真	『感性は感動しない』	表紙	榎木野衣	世界思想社	2018年	自社で撮影
120	ジョン・マクダウェル	写真						サイネットフォト
123	古田徹也	写真						共同通信社
123	『いつもの言葉を哲学する』	写真	『いつもの言葉を哲学する』	表紙	古田徹也	朝日新聞出版	2021年	自社で撮影
124	『言葉なんていらない？』	写真	『言葉なんていらない？』	表紙	古田徹也	創元社	2024年	自社で撮影
124	『ことばが変われば社会が変わる』	写真	『ことばが変われば社会が変わる』	表紙	中村桃子	筑摩書房	2024年	自社で撮影
124	『翻訳をジェンダーする』	写真	『翻訳をジェンダーする』	表紙	古川弘子	筑摩書房	2024年	自社で撮影
127	アプリによる乳牛管理	写真						時事通信社
132	江間有沙	写真						江間有沙
132	『AI社会の歩き方』	写真	『AI社会の歩き方』	表紙	江間有沙	化学同人	2019年	自社で撮影
134	『絵と図でわかるAIと社会』	写真	『絵と図でわかるAIと社会』	表紙	江間有沙	技術評論社	2021年	自社で撮影
134	『〈弱いロボット〉の思考』	写真	『〈弱いロボット〉の思考』	表紙	岡田美智男	講談社	2017年	自社で撮影
134	『AI以後』	写真	『AI以後』	表紙	丸山俊一	NHK出版	2019年	自社で撮影
136	アゲハチョウ	写真						PIXTA
136	サンショウ	写真						サイネットフォト
137	キアゲハ	写真						サイネットフォト
137	ジャコウアゲハ	写真						PIXTA
137	ウマノスズクサ	写真						アーテファクトリー
142	福岡伸一	写真						共同通信社
142	『新版 動的平衡2 生命は自由になれるのか』	写真	『新版 動的平衡2 生命は自由になれるのか』	表紙	福岡伸一	小学館	2018年	自社で撮影
143	『ルリボシカミキリの青』	写真	『ルリボシカミキリの青』	表紙	福岡伸一	文藝春秋	2012年	自社で撮影
143	『生命のからくり』	写真	『生命のからくり』	表紙	中屋敷均	講談社	2014年	自社で撮影
143	『生物多様性を問いなおす』	写真	『生物多様性を問いなおす』	表紙	高橋進	筑摩書房	2021年	自社で撮影
144	アシナガバチ	写真						Photolibrary
144	スズメバチ	写真						Photolibrary
145	ミツバチ	写真						Photolibrary
150	長谷川英祐	写真						長谷川英祐
150	『働かないアリに意義がある』	写真	『ヤマケイ文庫 働かないアリに意義がある』	表紙	長谷川英祐	山と溪谷社	2021年	自社で撮影
152	『面白くて眠れなくなる進化論』	写真	『面白くて眠れなくなる進化論』	表紙	長谷川英祐	PHP研究所	2015年	自社で撮影
152	『バッタを倒しにアフリカへ』	写真	『バッタを倒しにアフリカへ』	表紙	前野ウルト浩太郎	光文社	2017年	自社で撮影
152	『カラスの教科書』	写真	『カラスの教科書』	表紙	松原始	講談社	2016年	自社で撮影
161	高野麻子	写真						高野麻子
163	『指紋と近代』	写真	『指紋と近代』	表紙	高野麻子	みすず書房	2016年	自社で撮影
163	『ビッグデータの支配とプライバシー危機』	写真	『ビッグデータの支配とプライバシー危機』	表紙	宮下藤	集英社	2017年	自社で撮影
163	『デジタル化する新興国』	写真	『デジタル化する新興国』	表紙	伊藤亜聖	中央公論新社	2020年	自社で撮影
167	シュンペーター	写真						アフロ
170	小塚荘一郎	写真						小塚荘一郎
170	『AIの時代と法』	写真	『AIの時代と法』	表紙	小塚荘一郎	岩波書店	2019年	自社で撮影
172	『AI倫理』	写真	『AI倫理』	表紙	西垣通・河島茂生	中央公論新社	2019年	自社で撮影
172	『人工知能の核心』	写真	『人工知能の核心』	表紙	羽生善治	NHK出版	2017年	自社で撮影
172	『AI兵器と未来社会』	写真	『AI兵器と未来社会』	表紙	栗原聡	朝日新聞出版	2019年	自社で撮影
189	写真1 (ガリバースコープ)	写真						ハナムラチカヒロ
189	スウィフト	写真						アフロ

申請図書		出典					備考		
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等	
190	ファインダー	写真						アフロ	278670492
191	写真2 レインボーウォーク	写真						ハナムラチカヒロ	
191	写真3 レインボーウォーク	写真						ハナムラチカヒロ	
191	写真4 レインボーウォーク	写真						ハナムラチカヒロ	
194	ハナムラチカヒロ	写真						ハナムラチカヒロ	
194	『まなざしのデザイン 〈世界の見方〉を変える方法』	写真	『まなざしのデザイン 〈世界の見方〉を変える方法』	表紙	ハナムラチカヒロ	NTT出版	2017年	自社で撮影	
196	『定本 日本近代文学の起源』	写真	『定本 日本近代文学の起源』	表紙	柄谷行人	岩波書店	2008年	自社で撮影	
196	『武蔵野』	写真	『武蔵野』	表紙	国木田独歩	新潮社	1949年	自社で撮影	
196	『まなざしの革命』	写真	『まなざしの革命』	表紙	ハナムラチカヒロ	河出書房新社	2022年	自社で撮影	
198	ツグミ	写真						Photolibrary	1720467
206	野矢茂樹	写真						野矢茂樹	
206	『語りえぬものを語る』	写真	『語りえぬものを語る』	表紙	野矢茂樹	講談社	2011年	自社で撮影	
208	『「ロンリ」の授業』	写真	『「ロンリ」の授業』	表紙	NHK『ロンリのちから』制作	三笠書房	2022年	自社で撮影	
208	『新版 論理トレーニング』	写真	『新版 論理トレーニング』	表紙	野矢茂樹	産業図書	2006年	自社で撮影	
208	『そっとページをめくる』	写真	『そっとページをめくる』	表紙	野矢茂樹	岩波書店	2019年	自社で撮影	
212	ツクツクボウシ	写真						PIXTA	43446537
212	ネーゲル	写真						アフロ	155151424
215	オニグモ	写真						アーテファクトリー	11600461
215	『昆虫物語 みなしごハッチ』	写真	『昆虫物語 みなしごハッチ』		タツノコプロ		1970年	タツノコプロ	
216	金森修	写真						金森晶子	
216	『動物に魂はあるのか』	写真	『動物に魂はあるのか』	表紙	金森修	中央公論新社	2012年	自社で撮影	
218	『科学の危機』	写真	『科学の危機』	表紙	金森修	集英社	2015年	自社で撮影	
218	『快樂としての動物保護』	写真	『快樂としての動物保護』	表紙	信岡朝子	講談社	2020年	自社で撮影	
218	『アニマルウェルフェアとは何か』	写真	『アニマルウェルフェアとは何か』	表紙	枝廣淳子	岩波書店	2018年	自社で撮影	
222	コンポスト	写真						Gettyイメージズ	1859047038-170667a
223	矚口	写真						イメージナビ	10320964
223	上平崇仁	写真						上平崇仁	
223	千利休	写真						時事通信社	82804354
225	サンゴ礁を利用したテーブル製作の様子	写真						ユニフォトプレス	
226	ガンジス川で沐浴するヒンドゥー教の信徒	写真						サイネットフォト	SPE2AC904R
228	奥野克巳	写真						奥野克巳	
228	『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』	写真	『これからの時代を生き抜くための文化人類学入門』	表紙	奥野克巳	辰巳出版	2022年	自社で撮影	
232	『ありがとうもごめんないもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』	写真	『ありがとうもごめんないもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』	表紙	奥野克巳	新潮社	2023年	自社で撮影	
232	『文化人類学入門 増補改訂版』	写真	『文化人類学入門 増補改訂版』	表紙	祖父江孝男	中央公論新社	1990年	自社で撮影	
232	『旋回する人類学』	写真	『旋回する人類学』	表紙	松村圭一郎	講談社	2023年	自社で撮影	
250	中根千枝	写真						ユニフォトプレス	KDO_2020062305997
254	広井良典	写真						広井良典	
254	『持続可能な医療』	写真	『持続可能な医療』	表紙	広井良典	筑摩書房	2018年	自社で撮影	
256	『創造的福祉社会』	写真	『創造的福祉社会』	表紙	広井良典	筑摩書房	2011年	自社で撮影	
256	『ポスト資本主義』	写真	『ポスト資本主義』	表紙	広井良典	岩波書店	2015年	自社で撮影	
256	『生命の政治学』	写真	『生命の政治学』	表紙	広井良典	岩波書店	2015年	自社で撮影	
259	マーシャル・マクルーハン	写真						ユニフォトプレス	ULL_00227147
264	ルイス・マンフォード	写真						アフロ	155151468
268	ハイデガー	写真						アフロ	30673424
268	若林幹夫	写真						若林幹夫	
268	『社会学入門一歩前』	写真	『社会学入門一歩前』	表紙	若林幹夫	河出書房新社	2023年	自社で撮影	
270	『マクルーハン理論』	写真	『マクルーハン理論』	表紙	M・マクルーハン、E・カー	平凡社	2003年	自社で撮影	
270	『〈身〉の構造』	写真	『〈身〉の構造』	表紙	市川浩	講談社	1993年	自社で撮影	
270	『ウェブ社会のゆくえ』	写真	『ウェブ社会のゆくえ』	表紙	鈴木謙介	NHK出版	2013年	自社で撮影	
279	西谷修	写真						アフロ	267863246
279	『理性の探求』	写真	『理性の探求』	表紙	西谷修	岩波書店	2009年	自社で撮影	
281	『私たちはどんな世界を生きているか』	写真	『私たちはどんな世界を生きているか』	表紙	西谷修	講談社	2020年	自社で撮影	
281	『自分と未来のつくり方—情報産業社会を生きる』	写真	『自分と未来のつくり方—情報産業社会を生きる』	表紙	石田英敬	岩波書店	2010年	自社で撮影	
281	『社会を知るためには』	写真	『社会を知るためには』	表紙	筒井淳也	筑摩書房	2020年	自社で撮影	
282	キャロル・ギリガン	写真						アフロ	276592000
283	ロールズ	写真						Gettyイメージズ	113418096
283	アリストテレス	写真						アフロ	138682421
284	ソクラテス	写真						アフロ	148299615
291	岡野八代	写真						アフロ	267865083
291	『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』	写真	『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』	表紙	岡野八代	岩波書店	2024年	自社で撮影	
292	『戦争に抗する』	写真	『戦争に抗する』	表紙	岡野八代	岩波書店	2015年	自社で撮影	
292	『フェミニズムってなんですか？』	写真	『フェミニズムってなんですか？』	表紙	清水晶子	文藝春秋	2022年	自社で撮影	

申請図書		出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者		発行年次等
292	『ケアとは何か』	写真	『ケアとは何か』					自社で撮影
294	ウルリヒ・ベック	写真		表紙	村上靖彦	中央公論新社	2021年	アフロ
294	アンソニー・ギデンズ	写真						ユニフォトプレス
295	ニクラス・ルーマン	写真						ユニフォトプレス
302	アダム・スミス	写真						サイネットフォト
302	ヘーゲル	写真						ユニフォトプレス
303	マックス・ヴェーバー	写真						アフロ
305	大澤真幸	写真						アフロ
305	『不可能性の時代』	写真	『不可能性の時代』	表紙	大澤真幸	岩波書店	2008年	自社で撮影
307	『社会学史』	写真	『社会学史』	表紙	大澤真幸	講談社	2019年	自社で撮影
307	『選択の科学』	写真	『選択の科学』	表紙	シーナ・アイエンガー	文藝春秋	2014年	自社で撮影
307	『リスクの正体』	写真	『リスクの正体』	表紙	神里達博	岩波書店	2020年	自社で撮影
309	ボッゲ	写真						ユニフォトプレス
311	リンクレイター	写真						ユニフォトプレス
313	イーファー・トゥアン	写真						ユニフォトプレス
318	河野哲也	写真						河野哲也
318	『境界の現象学』	写真	『境界の現象学』	表紙	河野哲也	筑摩書房	2014年	自社で撮影
320	『道徳を問いなおす』	写真	『道徳を問いなおす』	表紙	河野哲也	筑摩書房	2011年	自社で撮影
320	『コスモポリタニズムの挑戦』	写真	『コスモポリタニズムの挑戦』	表紙	古賀敬太	風行社	2014年	自社で撮影
320	『分断と対話の社会学』	写真	『分断と対話の社会学』	表紙	塩原良和	慶応義塾大学出版会	2017年	自社で撮影
322	レヴィ=ストロース	写真						アフロ
330	A・モロフ	写真						サイネットフォト
331	エンツェンスベルガー	写真						アフロ
331	ゲーテ	写真						サイネットフォト
333	中村雄二郎	写真						中村静江
333	『哲学の現在』	写真	『哲学の現在』	表紙	中村雄二郎	岩波書店	1977年	自社で撮影
335	『臨床の知とは何か』	写真	『臨床の知とは何か』	表紙	中村雄二郎	岩波書店	1992年	自社で撮影
335	『文化人類学への招待』	写真	『文化人類学への招待』	表紙	山口昌男	岩波書店	1982年	自社で撮影
335	『現代経済学—ゲーム理論・行動経済学・制度論』	写真	『現代経済学 ゲーム理論・行動経済学・制度論』	表紙	瀧澤弘和	中央公論新社	2018年	自社で撮影
336	末弘巖太郎	写真						朝日新聞社
337	ナポレオン三世	写真						Getty Images
337	ヒトラー	写真						アフロ
348	アンドレ・シーグフリード	写真						アフロ
350	丸山真男	写真						ユニフォトプレス
350	『日本の思想』	写真	『日本の思想』	表紙	丸山真男	岩波書店	1961年	自社で撮影
352	『丸山真男セレクション』	写真	『丸山真男セレクション』	表紙	丸山真男(杉田敦編)	平凡社	2010年	自社で撮影
352	『社会学入門』	写真	『社会学入門』	表紙	見田宗介	岩波書店	2006年	自社で撮影
352	『動物化するポストモダン』	写真	『動物化するポストモダン』	表紙	東浩紀	講談社	2001年	自社で撮影
355	『鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図』	写真	『鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図』		安藤徳兵衛(三代歌川広重)	あらい亀吉	1882年	国立国会図書館デジタル化資料
355	1900年ごろの銀座通り	写真						ユニフォトプレス
358	月岡芳年	写真						サイネットフォト
358	北村透谷	写真						日本近代文学館
358	『北村透谷選集』	写真	『北村透谷選集』	表紙	北村透谷	岩波書店	1970年	自社で撮影
360	『山椒大夫・高瀬舟』	写真	『山椒大夫・高瀬舟』	表紙	森鷗外	新潮社	2006年	自社で撮影
360	『北原白秋詩集』	写真	『北原白秋詩集』	表紙	北原白秋	新潮社	1950年	自社で撮影
360	『東京の三十年』	写真	『東京の三十年』	表紙	田山花袋	岩波書店	1981年	自社で撮影
378	夏目漱石	写真						日本近代文学館
378	『漱石文明論集』	写真	『漱石文明論集』	表紙	夏目漱石	岩波書店	1986年	自社で撮影
380	『夏目漱石全集10』	写真	『夏目漱石全集10』	表紙	夏目漱石	筑摩書房	1988年	自社で撮影
380	『社会と自分』	写真	『社会と自分』	表紙	夏目漱石	筑摩書房	2014年	自社で撮影
380	『思い出す事など／私の個人主義／硝子戸の中』	写真	『思い出す事など／私の個人主義／硝子戸の中』	表紙	夏目漱石	講談社	2016年	自社で撮影
420	(鏡を見る赤ん坊)	写真						Getty Images
421	「聖地巡礼」の様子(江ノ島電鉄鎌倉高校前)	写真						朝日新聞社
422	アーツ・アンド・クラフツの織物	写真						ユニフォトプレス
423	トマトの色付きを判別するAI	写真						アフロ
424	10m海面上昇時のシミュレーション(東京周辺)	写真						JAXA
425	(NY証券取引所)	写真						アフロ
口絵⑦	ペーコン	写真						ユニフォトプレス
口絵⑦	ロック	写真						アフロ
口絵⑦	デカルト	写真						アフロ
口絵⑦	スピノザ	写真						ユニフォトプレス
口絵⑦	バスケル	写真						ユニフォトプレス
口絵⑦	ルノー	写真						ユニフォトプレス

申請図書		出典					備考	
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
	モンテスキュー	写真						ユニフォトプレス uniH_AIS18864
口絵⑦	カント	写真						アフロ 229829677
見返⑧	ヘーゲル	写真						ユニフォトプレス DEA_11254418
見返⑧	アダム・スミス	写真						サイネットフォト GRA110008663
見返⑧	ベンサム	写真						ユニフォトプレス BAL_CH 824220
見返⑧	ミル	写真						ユニフォトプレス BAL_LLM 655454
見返⑧	マルクス	写真						サイネットフォト IBR121035873
見返⑧	キルケゴール	写真						ユニフォトプレス uniH_AIS63194
見返⑧	ニーチェ	写真						アフロ 236184841
見返⑧	ハイデガー	写真						アフロ 30673424
見返⑧	サルトル	写真						ユニフォトプレス uniH_RDA00132256
見返⑨	ダーウィン	写真						サイネットフォト IBR110571977
見返⑨	フッサール	写真						ユニフォトプレス ullstein_high_00794428
見返⑨	メルロ＝ポンティ	写真						アフロ 23674520
見返⑨	フロイト	写真						アフロ 59447971
見返⑨	ユング	写真						ユニフォトプレス uniH_RDA00011840
見返⑨	ソシュール	写真						アフロ 236184900
見返⑨	ウイトゲンシュタイン	写真						アフロ 230642894
見返⑨	レヴィ＝ストロース	写真						アフロ 36353503
見返⑨	フーコー	写真						ユニフォトプレス uniH_RDA00031415
見返⑩	バルト	写真						アフロ 25106647
見返⑩	デリダ	写真						アフロ 230642426
見返⑩	サイード	写真						アフロ 130584297
見返⑩	ソクラテス	写真						アフロ 148299615
見返⑩	プラトン	写真						サイネットフォト SPEPTH771
見返⑩	アリストテレス	写真						アフロ 138682421
見返⑩	ルター	写真						ユニフォトプレス BAL_BEN 98867
見返⑩	コペルニクス	写真						ユニフォトプレス uniH_AIS271113
見返⑩	ガリレイ	写真						時事通信社 47126151

- 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。  
(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作者者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。☑

原典に加除訂正を加えた箇所と加除訂正の理由

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
【第I部】 評論(一) 豊かさを捉え直す	p 16～20	〈小見出し・一行空きを削除〉		・評論教材としての学習上の配慮による。
	p 16・1～2	今、さまざまな分野で「利他」の考え方が注目を集めています。「利他」とは何でしょうか。	〈採録箇所以前の内容を、文章の導入として補った。〉	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。
	p 16・7	利になるだろう」が、	利になるだろう」が	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。以下、原典にない読点については同様。
	p 16・11	わからないけれど、	分からないけど、	・教科書としてより適切な表現にするため。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 17・7	見返りを求める心。	〈このあと原文削除〉	・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。
	p 17・8	たとえば、「情けは人のためならず」の発想は、	「情けは人のためならず」の発想は、	・前項の削除に合わせて修正。
	p 17・14	語っています	〈このあと原文削除〉	・読みやすさに配慮して出典情報を削除。
	p 18・4	動き出した人がいた。	〈このあと原文および改行削除〉	・煩雑さを避けるため。
	p 18・6	多かったように思います。	〈このあと原文削除〉	・同上。
	p 19・8	受け身なことなのかもしれません。	〈このあと原文削除〉	・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。
	p 19・9	「聞く」とは、相手の行動が	「聞く」とは、この想定できていなかった相手の行動が	・前項の削除に合わせて削除。
	p 23～28	〈小見出しを削除〉		・評論教材としての学習上の配慮による。
	p 23・1	『ヘンゼルとグレーテル』の	「ヘンゼルとグレーテル」の	・書名であるため。以下、この修正については同様。
	p 23・7	日本にも、学校菜園をもっと増やして子供たちの心と身体を育てていこうと試みている団体がある。	日本にも「エディブル・スクールヤード・ジャパン」という一般社団法人があつて、学校菜園をもっと増やして、子どもたちの心と身体を育てていこうと試みている。	・特定団体名の掲載を避けるために団体名を削除するとともに、文章を整えた。
	p 23・9	目指しているある高等学校を	目指している長野市立長野中学・高等学校を	・煩雑さを避けるため。
	p 23・9	市民にお裾分けするという	市民とお裾分けするという	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 25・9	都会の住宅地では、家に果樹が植わっていることは多いのだが、	だが、都会の住宅地では、家に果樹が植わっていることが多いのだが、	・同上。
	p 25・13	すぐわないものなのである。	すぐわないものである。	・同上。
	p 25・14	現代社会は、	〈このあと原文および改行削除〉	・煩雑さを避けるため。
	p 26・5	直結しすぎている。	〈このあと原文削除〉	・同上。
p 26・6	主著『貧困と飢饉』の中で、	主著『貧困と飢饉』（岩波現代文庫、2017年）のなかで、	・読みやすさに配慮して出典情報を削除。以下、本教材内のこの修正については同様。	
p 26・12	お金がない。	〈このあと原文削除〉	・学習上の配慮による。	
p 26・15	狩猟採集をやめることはしなかった。	狩猟採集はやめることをしなかった。	・教科書としてより適切な表現にするため。	
p 27・4	脳内物質が活性化するのは、	脳内物質の活性化は、	・同上。	
p 27・5	活性化するのは、	〈このあと原文削除〉	・煩雑さを避けるため。	
p 28・1	合理的選択かもしれないのである。	〈このあと原文削除〉	・同上。	
評論(二) 他者と向き合う	p 32・1	「間」というのは、	しかし、〈間〉というのは、	・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。
	p 32・1	「間」	〈間〉	・一般的な符号に改めた。以下、符号については同様。
	p 32・2	他者のその他者として	他者のその他者として	・読みやすさに配慮して傍点を追加。
	p 32・3	自分を休ませる	自分を休める	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 32・4	ないだろうか。	ないのだろうか。	・同上。
	p 34・8	浸透していく	浸透してゆく	・同上。
	p 34・10	それで、自己の内へと	で、自己の内へと	・同上。
	p 34・16	陥っていく。	陥ってゆく。	・同上。
	p 35・5	すんでいるのである。	〈このあと小見出し・一行空きを削除〉	・評論教材としての学習上の配慮による。
	p 35・12	「誰か」	「だれ」か	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 35・15	必ず他者が必要だ。	必ず他者が必要だ、	・ここで文が切れていると思われるため。以下、この修正については同様。
	p 36・2	現実化される。	〈このあと原文削除〉	・採録スペースの関係による。
	p 36・10	ひどく落ち込む。	〈このあと原文削除〉	・同上。
	p 36・14	ある文章の中で触れているが、	先の文章のなかでふれていたが、	・前項の削除に合わせて修正。
p 39～44	〈小見出しを削除〉		・評論教材としての学習上の配慮による。	

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
評論(二) 他者と向き合う	p 39・1	できるでしょうか。〈改行なし〉とても簡単に	できるでしょうか。〈改行あり〉とても簡単に	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の流れを中断しないため。以下、文を続けた箇所については同様。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>同上。</li> <li>わかりやすくするため。以下、読点を削除した箇所については同様。</li> <li>教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>採録スペースの関係による。</li> <li>部分採録のため。</li> <li>採録スペースの関係による。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>同上。</li> </ul>
	p 39・6	駄目だ	ダメだ	
	p 40・16 p 40・17	近いと言えるでしょう。 ある程度	近いわけでしょう。 ある程度、	
	p 42・13	対話という活動は、	対話は、	
	p 42・14	社会を形成するという可能性	社会の形成へという可能性	
	p 42・17 p 43・1 p 43・10 p 43・17	行為だからです。 私は、 つき合ってみてください。 現すというのは、	〈このあと原文削除〉 この本では、 〈このあと原文削除〉 現すという意味は、	
	p 44・10	しているのです。	しているわけなのです。	
読解のレッスン(一) 論理を見いだす	p 48・1	少なくとも近代において、芸術作品の作り手である作者は	少なくとも近代において、作者は	<ul style="list-style-type: none"> <li>部分採録であるため、採録箇所以前の内容を補った。</li> <li>部分採録のため、前項を受ける表現を削除。</li> <li>筆者の意向による。</li> <li>原典の誤りと思われるため。</li> </ul>
	p 48・7	ところで、作品の作り手である筆	ところで、先にも述べたように作品	
	p 49・18	者は	の作り手である筆	
	p 49・18	アンリ・フォションも フォション	フォションも フォション	
評論(三) 言語文化を解きほぐす	p 56～65	〈原文の削除・修正〉	〈大幅訂正のため略〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。</li> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>わかりやすくするため。</li> <li>同上。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>わかりやすくするため。以下、原典にない改行については同様。</li> <li>採録スペースの関係による。</li> <li>読みやすさに配慮して中点を追</li> </ul>
	p 70～76	〈小見出しを削除〉		
	p 70・2	荷物を運び、家畜の面倒を見てくれるなど、	荷物を運んだり、家畜の面倒を見てくれたり、	
	p 71・7 p 71・9 p 71・15	現代においても同様である。 登場しているのも、すべて自然の時代とともに不安定に動揺する人間と動物との境界線のうちに、	現代においてもそうである。 登場しているのもすべて、自然の人間と動物との時代とともに不安定に動揺する境界線のうちに、	
	p 72・13	数多くある。〈改行〉しかし、賢治には	数多くある。しかし、賢治には	
	p 72・16～17	民話「鶴女房」では、……ことである。	〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉	
	p 73・5	義務的・儀礼的	義務的儀礼的	
評論(四) 芸術を読み直す	p 87・上1	美しさの謎ではモナ・リザの	美しさの謎では先述の「モナ・リザ」の	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。</li> <li>作品の正式名称ではないため。以下、本教材内のこの修正については同様。</li> <li>教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。</li> <li>採録スペースの関係による。</li> <li>教育的配慮による。</li> <li>同上。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>教科書としてより適切な表記に改めた。以下、この修正については同様。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。</li> <li>原典の誤りと思われるため。</li> <li>わかりやすくするため。</li> </ul>
	p 87・上1	モナ・リザの	「モナ・リザ」の	
	p 87・上12	最大の特徴である。	最大特徴である。	
	p 87・下5 p 87・下12	両手のない婦人像を。 両手をつけたミロのビーナスも	〈このあと原文削除〉 両手を付けた五体満足のミロのビーナスも	
	p 88・上1 p 88・上13	両手がつくと 感じられてきたのである。	五体満足になると 感じられてきたのだった。	
	p 96・11	見たことがあるぞ。」	見たことがあるぞ」	
	p 96・14 p 98・10	言えるでしょうか。 ということです。	〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉	
	p 99・13 p 100・7	自分と他人とを分け隔て、 それは柳に従えば、	自分を他人とを分け隔て、 柳にしたがえば、	
	読解のレッスン(二) 文章を読み比べる	p 108・6	少なくともこの種の科学者は	
p 108・8		無視しないものでなければなら	〈このあと原文削除〉	
p 110～113		〈小見出しを削除〉		
p 110・2		多いかもしれないけれど、	多いかもしれないけど、	
p 110・15		向上するだろう。	〈このあと原文削除〉	

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由		
読解のレッスン(二) 文章を読み比べる	p 111・2	結論づけるとしても、	結論するとしても、	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。</li> <li>文章が書かれた当時とは状況が異なるため。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>筆者の意向による。</li> <li>採録スペースの関係による。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> </ul>		
	p 111・3 p 111・4	投げかけ続けているとも言える。 教科書に載っていたような	〈このあと原文削除〉 教科書に載ってたような			
	p 111・8 p 111・15	古典的なアートのお話で、 人を動かすことがある。	〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉			
	p 111・16	「越後妻有アートトリエンナーレ」	今年は「越後妻有アートトリエンナーレ」			
	p 111・16 p 112・15	という芸術祭 絶望感をいやというほど	〈このあと原文削除〉 絶望感をいやほど			
	p 112・16 p 112・17 p 112・18 p 113・3	科学者も、 関わっていたいと思うから。 できるだけのことをしたい。 持てればいいと、	大学や研究者も、 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 持てればいいなって、			
	評論(五) 変化に対応する	p 116～122	〈小見出しを削除〉			<ul style="list-style-type: none"> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>特定企業名の掲載を避けるため。</li> <li>文章が書かれた当時とは状況が異なるため。</li> <li>特定企業名の掲載を避けるため。</li> <li>前項の訂正で削除した内容を受けける表現を削除。</li> <li>読みやすさに配慮して括弧内の語を脚注に回した。</li> <li>教科書としてより適切な表記に改めた。以下、この修正については同様。</li> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>同上。</li> <li>教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。</li> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>煩雑さを避けるため。</li> <li>教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。</li> <li>特に必要とは思われないため。</li> <li>教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため、ダッシュを削除し、改行した。</li> <li>筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。</li> </ul>
p 116・9 p 117・3 p 117・5		呼びかけなのだとも思う。 ある大手コンビニチェーンが 批判が出た。	〈このあと原文削除〉 コンビニ大手のファミリーマートが 〈このあと原文削除〉			
p 117・6 p 117・9		というテレビ番組も、 派生番組が始まり、	というNHKのテレビ番組も、 派生番組が同局で始まり、			
p 117・11 p 118・10		ジェンダーバイアスをめぐる問題 「『母語』というのは	ジェンダーバイアス（社会的な性役割 についての固定観念）をめぐる問題 「『母語』というのは			
p 119・6		どこまで	〈傍点削除〉			
p 119・7 p 119・7		全部 だが、私たちの生活に	〈傍点削除〉 だが、前章で外来語について強調した のと同様に（一八〇頁）、私たちの生活に			
p 119・12		概念が特定のイメージ	〈このあと原文削除〉			
p 119・14 p 119・15		地母神がしばしば 以つて天下の母と為すべし	地母神（大地の母なる神）がしばしば 可以爲天下母			
p 121・8 p 122・13		増えていくだろう。 唱えること。〈改行〉「母」は	〈このあと原文削除〉 唱えること。——「母」は			
p 125～132		〈原文の削除・修正〉	〈大幅訂正のため略〉			
評論(六) 多様性を見つめる		p 136～141	〈小見出しを削除〉		<ul style="list-style-type: none"> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>採録分量の関係による。</li> <li>部分採録のため、前項を受けける表現を削除。</li> <li>教科書としてより適切な表記に改めた。以下、この修正については同様。</li> <li>部分採録のため、前項を受けける表現を削除。</li> <li>部分採録のため、後項を受けける表現を削除。</li> <li>評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>同上。</li> <li>文章が書かれた当時とは状況が異なるため。</li> <li>発表時と現在とで年数が合わなくなっているため。</li> </ul>	
		p 144～150	〈小見出しを削除〉			
	p 145・9 p 146・3	疲れていきます。 すると反応閾値の差が	〈このあと原文削除〉 するとそこでも反応閾値の差が			
	p 146・6	働かせるべきなのか。	働かせるべきなのか？			
	p 147・1	わかったのです。	〈このあと原文削除〉			
	p 147・17	働かないアリとは、	〈このあと原文削除〉			
	p 148・7	以上、見てきたように、	見てきたように、			
	p 149・10	能力を出せと、	能力を出せ！と			
	p 149・13 p 149・13	「役に立つ研究を。」 高くなっています。	「役に立つ研究を！」 高くなっていますし、私の研究など真 っ先に事業仕分けされてしまいそうで す。			
	p 149・17	たとえば狂牛病（＝BSE）の病 原体は、	たとえば十数年前に大騒動を引き起こ した狂牛病（＝BSE）。この病原体は、			

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
評論(七) 未来を構想する	p 154～161	〈小見出しを削除〉		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>・文章が書かれた当時とは状況が異なるため。</li> <li>・原典の誤りと思われるため。</li> <li>・読みやすさに配慮して出典情報を削除。</li> <li>・煩雑さを避けるため。</li> <li>・評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。</li> <li>・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。</li> </ul>
	p 156・4	その名のとおり、商業施設や大型イベント会場などへの入場の際に、ゲート前で立ち止まる必要がないシステムである。	その名の通り、ゲートの前で立ち止まる必要がないため、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の会場で、利用が予定されている。	
	p 156・9 p 156・13	準備するために、あふれている	準備するめに、 〈このあと原文削除〉	
	p 156・15	固定的な情報ではなく、	固定的な情報（現代ではこれらの情報も固定的とはいえない）ではなく、	
	p 164～170	〈小見出しを削除〉		
	p 164・1	論じられる。	よく論じられることは、この点と関係がある。	
	p 168・15	知られるようになった。	〈このあと原文削除〉	
【第Ⅱ部】 評論(一) 世界を捉え返す	p 186～194	〈原文の削除・修正〉	〈大幅訂正のため略〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。</li> <li>・評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>・教育的配慮による。</li> </ul>
	p 197～206	〈小見出しを削除〉		
	p 202・14	教えることになるだろう。	〈このあと原文削除〉	
評論(二) 人間中心主義を問う	p 210～216	〈小見出しを削除〉		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>・読みやすさに配慮して括弧内の語を脚注に回した。本教材内のこの修正については同様。</li> <li>・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。</li> <li>・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。</li> <li>・採録スペースの関係による。</li> <li>・原典の誤りと思われるため。</li> </ul>
	p 212・15	『コウモリであるとはどのようなことか』	『コウモリであるとはどのようなことか』（一九七九）	
	p 213・7	死ぬのである。	〈このあと原文削除〉	
	p 219～228	〈原文の削除・修正〉	〈大幅訂正のため略〉	
	p 230・下6 p 231・上1	「デザイン」されていく。実は東洋の伝統的な	〈このあと原文削除〉 実東洋の伝統的な	
読解のレッスン(三) 推論を習得する	p 238～239	〈小見出しを削除〉		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>・採録スペースの関係による。</li> <li>・教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>・採録スペースの関係による。</li> <li>・同上。</li> <li>・教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>・評論教材としての学習上の配慮による。</li> <li>・部分採録のため。</li> <li>・教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。</li> <li>・前項の削除に合わせて修正。</li> <li>・他の人物の名前の表記のしかたに合わせて修正。</li> <li>・教科書としてより適切な表現にするため。</li> <li>・同上。</li> <li>・教育的配慮による。</li> <li>・煩雑さを避けるため。</li> <li>・部分採録のため、後項を受ける表現を削除。</li> <li>・採録スペースの関係による。</li> <li>・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。</li> <li>・煩雑さを避けるため。</li> <li>・図の削除に伴い、図を受ける表現を削除。以下、本教材内のこの修</li> </ul>
	p 238・3 p 238・4～6	導くわけです。個別ケースを……思います。	〈このあと原文削除〉 〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉	
	p 238・13 p 239・9～13	たどり着くこともあります。私は今まで……算段です。	〈このあと原文削除〉 〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉	
	p 239・17	「外は雨が降っているにちがいない」	「外で雨が降っているに違いない」	
	p 240～245	〈小見出しを削除〉		
	p 240・1 p 240・4	〈改行〉定義しようとする、ひとつ皆さんに	〈改行なし〉定義しようとする、ひとつ読者の皆さんに	
	p 240・7	トートロジーと呼ばれる、	先ほどのトートロジーと呼ばれる、	
	p 240・8 p 241・2	ことになります。パーシヴァル・ローウェル	ことに気がつくはずです。ローウェル	
	p 241・4	あのローウェル先生が	あのローウェル教授が	
	p 241・8 p 241・14 p 241・15	発見して「N線」と命名したのです。このN線事件を紹介した	発見、「N線」と命名した 〈このあと原文削除〉 このN線事件を一九九九年の著作で紹介した	
	p 241・16	あると言います。	〈このあと原文削除〉	
	p 241・18	二つです。〈図と原文中の図番号を削除〉	二つです（図1-1）。	
	p 242・7	ただ、ポストホックな理由付けは、	ただ前にも述べたように、ポストホックな理由付けは、	
	p 243・2 p 243・11	トマス・クーンによって登場するのです。	トマス・クーン（一九六二）によって 〈このあと原文削除〉	

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
読解のレッスン(三) 推論を習得する	p 243・12	それでは説明できない	それで説明できない	正については同様。
	p 243・13	彼の有名な万有引力を含む力学理論は、	彼の有名な万有引力を含む力学理論（『プリンキピア』）は、	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 244・4	プロセスを、	プロセスは、	・読みやすさに配慮して出典情報を削除。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 244・6	必要があります。	〈このあと原文削除〉	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 244・7 p 245・7	実はそうではなかったのです。カール・ポパーは、	〈このあと原文削除〉 カール・ポパー（一九〇二～一九九四）は、	・部分採録のため、後項を受ける表現を削除。 ・煩雑さを避けるため。 ・同上。
評論(三) 現代社会を読み解く	p 248～254	〈小見出しを削除〉		・評論教材としての学習上の配慮による。
	p 248・7	卒業論文	卒論	・教科書としてより適切な表現にするため。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 249・13 p 250・15	(下図) 社会人類学者	(図4-3) 文化人類学者	・部分採録のため。
	p 251・1	思い出される。	思い出される（中根 [一九六七]）。	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 251・13 p 252・2 p 252・16	重要となる。 二〇一四年に それは、	〈このあと原文削除〉 数年前に それは次節で述べるように	・読みやすさに配慮して参考文献に関する記述を削除。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 253・14	希望をこめて次のように考えれば、	希望をこめて記せば、次のように考えれば	・採録スペースの関係による。
	p 254・5	ここまでの議論	先の議論	・出典を削除したことに伴い修正。
	p 254・6	子供と高齢者の人口が指標となる「地域密着人口」の増加	「地域密着人口」の再びの増加	・教科書採録箇所以外の部分をさした表現であるため。
	p 258・6	単に「代行」している	単に代行している	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 258・10	聞いたり見たりすることが、	聞いたり見たりすることが他者による編集を介して、	・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。
	p 258・13	見ることのできるリアリティを持つ場所	見ることのできるようなリアリティをもつ場所	・わかりやすくするため。
	p 258・15 p 260・12	CDやDVDなどの形 メディアを「第二の身体」としながら生きていくのだ。	CDやDVDのような形 メディアを第二（第三、第四……）の身体として生きていくのだ。	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。
	p 261・4 p 261・5	利用したりする。 「道具」	〈このあと原文削除〉 「道具 (tool)」	・煩雑さを避けるため。
	p 261・9	「知覚技術」という技術である。	〈このあと原文削除〉	・読みやすさに配慮して外国語表記を削除。以下、本教材内のこの修正については同様。
	p 261・11	捉えることもできる。	捉えることができる。	・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。
	p 261・12 p 262・13	掘ることが だけではない。	掘ったり切ったり 〈このあと原文削除〉	・教科書としてより適切な表現にするため。
	p 262・15 p 262・15～16	それらを仲立ちとして、 道具や機械は、……呼び得るものなのだ	〈このあと原文削除〉 〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉	・同上。
	p 263・5	なかっただろう。	〈このあと原文および改行削除〉	・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。
	p 263・8	人が共同の	人が使用し、共同の	・採録スペースの関係による。
	p 263・14 p 264・3～4	情報メディアという道具 農地の拡張……可能になる。	〈このあと原文削除〉 〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉	・煩雑さを避けるため。
	p 264・6～8	そこには文字も……意味する。	〈原文の一部削除に伴って、文章を整えた〉	・同上。
	p 264・10 p 264・10	神話や歴史 法制などもまた、この巨大機械を支えるメディアとして機能していたのである。	〈このあと原文削除〉 法制もまた、この巨大機械を支えるプログラムとして存在し、機能していたのである。	・採録スペースの関係による。
	p 264・13 p 265・9	現代の社会は、 希少化と偏在化	〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。
	p 266・7 p 266・7	そもそも、 使うことが、	〈このあと原文削除〉 使うことは、	・煩雑さを避けるため。
	p 266・15	可能になったりするなど、	可能になったり、	・同上。

単元名	ページ・行	本文	原典	訂正理由
評論(三) 現代社会を読み解く	p 267・2 p 268・3	独占したりするようになった。 誘惑したりするということである。	独占するようになったりする。 〈このあと原文削除〉	・同上。 ・採録スペースの関係による。
評論(四) 倫理を問い直す	p 272～279 p 273・1 p 275・8 p 277・6 p 277・7 p 278・5 p 278・7 p 282～290	〈小見出しを削除〉 明らかになるだろう。 ひもといてみる。 消えていく 死んでいく 他者との関係 成り立たせているのである。 〈原文の削除・修正〉	〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 消えてゆく 死んでゆく 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 〈大幅訂正のため略〉	・評論教材としての学習上の配慮による。 ・文章が書かれた当時とは状況が異なるため。 ・読みやすさに配慮して参考文献に関する記述を削除。 ・教科書としてより適切な表記に改めた。 ・同上。 ・煩雑さを避けるため。 ・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。 ・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。
評論(五) 未知に向き合う	p 294～305 p 294・7 p 295・10 p 299・4 p 299・7 p 302・1 p 302・10 p 308～318 p 310・15 p 310・17 p 315・1	〈小見出しを削除〉 対応している。 ギデنزが 意思決定 正義や真理に 再帰性の水準の ではないか。 〈小見出しを削除〉 どこかの場所での変化が 他者に対して道徳的に 習慣的行動を取っても、	〈このあと原文削除〉 アンソニー・ギデنزが 意志決定 正義や真理を 再帰性の水準が 〈このあと原文削除〉 どこかの場所での変化が 他者に対する道徳的な 習慣的な行動を行っても、	・評論教材としての学習上の配慮による。 ・煩雑さを避けるため。 ・他の人物の名前の表記のしかたに合わせて修正。 ・原典の誤りと思われるため。 ・教科書としてより適切な表現にするため。 ・同上。 ・煩雑さを避けるため。 ・評論教材としての学習上の配慮による。 ・教科書としてより適切な表現にするため。 ・同上。 ・同上。
評論(六) 社会の仕組みを考える	p 322・10 p 322・11 p 324・1 p 325・9 p 325・10 p 326・16 p 328・4 p 328・14 p 330・12 p 331・2 p 331・3 p 331・10 p 332・9 p 332・14 p 336～350	捕まったときである。 そのようなとき、 内面化されているのである。 多くなるだろう。 間接化する中で 在るものなのである。 必要なのだ。 生じてくるのである。 考えられたことさえあった。 と考えられている。 A・モロワも ドイツの詩人エンツェンスベルガーは レヴィ=ストロースの言う合目的的な無意識のはたらきはたらきがあるのである。 〈原文の削除・修正〉	〈このあと原文削除〉 そのようなことにでもなれば、 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 間接化するのである。このようななかで 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 A・モロワ (『恋愛の七つの顔』) も 或るドイツの詩人 (エンツェンスベルガー) は 合目的的な無意識 (レヴィ=ストロース) の働き 〈このあと原文削除〉 〈大幅訂正のため略〉	・採録スペースの関係による。 ・前項の削除に伴って指示する内容が変わるため。 ・採録スペースの関係による。 ・同上。 ・部分採録のため、前項を受ける表現を削除。 ・採録スペースの関係による。 ・同上。 ・同上。 ・同上。 ・同上。 ・読みやすさに配慮して出典情報を削除。以下、本教材内のこの修正については同様。 ・匿名的な表現は必要ないと思われるため。 ・誤読を避けるとともに、出典の表示のしかたを統一するため。 ・採録スペースの関係による。 ・採録スペースの関係で分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正。
評論(七) 文明を批評する	p 361～378	〈原文の削除・修正〉	〈大幅訂正のため略〉	・採録スペースの関係で分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。
実用文(二) 規則の意味を解釈する	p 382～383	〈原文の削除・修正〉	〈大幅訂正のため略〉	・筆者の監修のもと、分量の調整をするとともに、全般にわたって、教科書として適切な表記・表現となるように修正を加えた。
小論文を書く	p 404・4 p 405・1 p 405・8 p 405・14	ペルソナに苦しむ人がある。 あるという。 ユング心理学者河合隼雄の (河合隼雄『ユング心理学入門』一 九六七)	ペルソナに苦しむ人もいる。 〈このあと原文削除〉 河合隼雄の (河合隼雄『ユング心理学入門』培風館)	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。 ・採録スペースの関係による。 ・煩雑さを避けるため。 ・出典の表示のしかたを統一するため。

# ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	3	二次元コード		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
	3	URL		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
	表4	二次元コード		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
2	16	二次元コード		自社ページURL	『「利他」とは何か』語句の言い換え	別紙2添付
				自社ページURL	『「利他」とは何か』語句の意味	別紙3添付
3	23	二次元コード		自社ページURL	『エディブル・プラネット』語句の言い換え	別紙4添付
				自社ページURL	『エディブル・プラネット』語句の意味	別紙5添付
4	32	二次元コード		自社ページURL	『自他の「間あい」』語句の言い換え	別紙6添付
				自社ページURL	『自他の「間あい」』語句の意味	別紙7添付
5	39	二次元コード		自社ページURL	『対話の意味』語句の言い換え	別紙8添付
				自社ページURL	『対話の意味』語句の意味	別紙9添付
6	48	二次元コード		自社ページURL	『制作の自由と制約』語句の言い換え	別紙10添付
				自社ページURL	『制作の自由と制約』語句の意味	別紙11添付
7	52	二次元コード		自社ページURL	『共感と道徳的行為』語句の言い換え	別紙12添付
				自社ページURL	『共感と道徳的行為』語句の意味	別紙13添付
8	56	二次元コード		自社ページURL	『オノマトペとは何か』語句の言い換え	別紙14添付
				自社ページURL	『オノマトペとは何か』語句の意味	別紙15添付
9	70	二次元コード		自社ページURL	『越境する動物がもたらす贈り物』語句の言い換え	別紙16添付
				自社ページURL	『越境する動物がもたらす贈り物』語句の意味	別紙17添付
10	77	二次元コード	岩手県	<a href="http://www.bunka.pref.iwate.jp/info">http://www.bunka.pref.iwate.jp/info</a>	参考リンク1：魚の女房	
			佐賀市	<a href="https://saga-otakara.jp/sitemap/">https://saga-otakara.jp/sitemap/</a>	参考リンク2：蛇女房（異類婚姻）	
11	80	二次元コード		自社ページURL	『手の変幻』語句の言い換え	別紙18添付
				自社ページURL	『手の変幻』語句の意味	別紙19添付
12	86	二次元コード		自社ページURL	「欠落」や「無」が重要な役割を果たしている芸術作品の例	別紙20添付
			国立文化財機構	<a href="https://emuseum.nich.go.jp/detail?content_base_id=100151&amp;content_part_id=001&amp;content_pict_id=003&amp;langl_d=ja&amp;webView=">https://emuseum.nich.go.jp/detail?content_base_id=100151&amp;content_part_id=001&amp;content_pict_id=003&amp;langl_d=ja&amp;webView=</a>	参考リンク1：松林図屏風	

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
			ルーブル美術館	<a href="https://www.louvre.fr/en/explore/the-palace/a-stairway-to-victory">https://www.louvre.fr/en/explore/the-palace/a-stairway-to-victory</a>	参考リンク2：サモトラケのニケ	
13	90	二次元コード	NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180393_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180393_00000</a>	参考動画：情報の集め方	
14	94	二次元コード		自社ページURL	『反アート入門』 語句の言い換え	別紙21添付
				自社ページURL	『反アート入門』 語句の意味	別紙22添付
15	104	二次元コード	日本民藝館	<a href="https://mingeikan.or.jp/">https://mingeikan.or.jp/</a>	参考リンク：日本民藝館	
16	106	二次元コード		自社ページURL	『科学者と芸術家』 語句の言い換え	別紙23添付
				自社ページURL	『科学者と芸術家』 語句の意味	別紙24添付
17	110	二次元コード		自社ページURL	『自然と科学と、芸術のお話』 語句の言い換え	別紙25添付
				自社ページURL	『自然と科学と、芸術のお話』 語句の意味	別紙26添付
18	116	二次元コード		自社ページURL	『「お母さん」の用法』 語句の言い換え	別紙27添付
				自社ページURL	『「お母さん」の用法』 語句の意味	別紙28添付
19	125	二次元コード		自社ページURL	『技術とどうつき合うか』 語句の言い換え	別紙29添付
				自社ページURL	『技術とどうつき合うか』 語句の意味	別紙30添付
20	133	二次元コード	厚生労働省	<a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html</a>	参考リンク1：厚生労働省 介護ロボットの開発・普及の促進	
			経済産業省	<a href="https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono_robot/index.html">https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono_robot/index.html</a>	参考リンク2：経済産業省 政策一覧ーロボット	
			内閣府	<a href="https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_team/6kai/shiryokouyou.pdf">https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_team/6kai/shiryokouyou.pdf</a>	参考リンク3：内閣府 新たなテクノロジーが雇用に与える影響について	
21	136	二次元コード		自社ページURL	『なぜ多様性が必要か』 語句の言い換え	別紙31添付
				自社ページURL	『なぜ多様性が必要か』 語句の意味	別紙32添付
22	144	二次元コード		自社ページURL	『働かないアリの意義がある』 語句の言い換え	別紙33添付
				自社ページURL	『働かないアリの意義がある』 語句の意味	別紙34添付
23	154	二次元コード		自社ページURL	『生体認証技術の発展と未来』 語句の言い換え	別紙35添付
				自社ページURL	『生体認証技術の発展と未来』 語句の意味	別紙36添付
24	164	二次元コード		自社ページURL	『AI時代の社会と法』 語句の言い換え	別紙37添付
				自社ページURL	『AI時代の社会と法』 語句の意味	別紙38添付
	177	二次元コード	総務省統計局	<a href="https://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html">https://www.stat.go.jp/naruhodo/index.html</a>	参考リンク：なるほど 統計学園	
26	186	二次元コード		自社ページURL	『まなざしのデザイン』 語句の言い換え	別紙39添付
				自社ページURL	『まなざしのデザイン』 語句の意味	別紙40添付

申請図書			学習上の参考に供する情報				備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要		
27	197	二次元コード		自社ページURL	『言語が見せる世界』 語句の言い換え	別紙41添付	
				自社ページURL	『言語が見せる世界』 語句の意味	別紙42添付	
28	210	二次元コード		自社ページURL	『人間という中心と、それよりも〈軽い命〉』 語句の言い換え	別紙43添付	
				自社ページURL	『人間という中心と、それよりも〈軽い命〉』 語句の意味	別紙44添付	
29	219	二次元コード		自社ページURL	『マルチスピーシーズの示す未来』 語句の言い換え	別紙45添付	
				自社ページURL	『マルチスピーシーズの示す未来』 語句の意味	別紙46添付	
30	223	二次元コード	NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0004990010_00000">https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0004990010_00000</a>	参考動画：裏千家 露地（躑口）		
31	248	二次元コード		自社ページURL	『コミュニティ空間としての都市』 語句の言い換え	別紙47添付	
				自社ページURL	『コミュニティ空間としての都市』 語句の意味	別紙48添付	
32	255	二次元コード	NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/chiiki/movie/?das_id=D0015010702_00000">https://www2.nhk.or.jp/chiiki/movie/?das_id=D0015010702_00000</a>	参考動画1：人のつながりが生まれる都会の居場所		
			NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/chiiki/movie/?das_id=D0015010792_00000">https://www2.nhk.or.jp/chiiki/movie/?das_id=D0015010792_00000</a>	参考動画2：高齢者が生き生きと支えあう地域		
33	256	二次元コード	NHK	<a href="https://www.nhk.or.jp/chiiki-blog/900/245345.html">https://www.nhk.or.jp/chiiki-blog/900/245345.html</a>	参考リンク：“定常型社会”の時代へ		
34	257	二次元コード		自社ページURL	『「第二の身体」としてのメディアと技術』 語句の言い換え	別紙49添付	
				自社ページURL	『「第二の身体」としてのメディアと技術』 語句の意味	別紙50添付	
35	272	二次元コード		自社ページURL	『いのちのかたち』 語句の言い換え	別紙51添付	
				自社ページURL	『いのちのかたち』 語句の意味	別紙52添付	
36	282	二次元コード		自社ページURL	『ケアの倫理』 語句の言い換え	別紙53添付	
				自社ページURL	『ケアの倫理』 語句の意味	別紙54添付	
37	294	二次元コード		自社ページURL	『リスク社会とは何か』 語句の言い換え	別紙55添付	
				自社ページURL	『リスク社会とは何か』 語句の意味	別紙56添付	
38	308	二次元コード		自社ページURL	『コスモポリタニズムの可能性』 語句の言い換え	別紙57添付	
				自社ページURL	『コスモポリタニズムの可能性』 語句の意味	別紙58添付	
39	322	二次元コード		自社ページURL	『目に見える制度と見えない制度』 語句の言い換え	別紙59添付	
				自社ページURL	『目に見える制度と見えない制度』 語句の意味	別紙60添付	
40	336	二次元コード		自社ページURL	『「である」と「する」こと』 語句の言い換え	別紙61添付	
				自社ページURL	『「である」と「する」こと』 語句の意味	別紙62添付	
41	352	二次元コード	NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0001820025_00000">https://www2.nhk.or.jp/archives/movies/?id=D0001820025_00000</a>	参考動画：知の巨人たち 民主主義を求めて～政治学者 丸山眞男～		

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
42	354	二次元コード		自社ページURL	『漫罵』語句の言い換え	別紙63添付
				自社ページURL	『漫罵』語句の意味	別紙64添付
			NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120314_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120314_00000</a>	参考動画：10min. ボックス 日本史 文明開化	
43	360	二次元コード		自社ページURL	北原白秋『銀座の雨』	別紙65添付
44	361	二次元コード		自社ページURL	『現代日本の開化』語句の言い換え	別紙66添付
				自社ページURL	『現代日本の開化』語句の意味	別紙67添付
			NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120314_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120314_00000</a>	参考動画：10min. ボックス 日本史 文明開化	
45	380	二次元コード		自社ページURL	森鷗外『青年』（拊石の演説の部分)	別紙68添付
46	392	二次元コード	NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180391_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180391_00000</a>	参考動画1：課題の見つけ方	
			NHK	<a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180396_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180396_00000</a>	参考動画2：分析のしかた	
47	426	二次元コード		自社ページURL	評論キーワード一覧 Web版	別紙69添付

107-195 (書名入る)

著作権について

評論(一) 豊かさを捉え直す

評論(二) 他者と向き合う

読解のレッスン(一) 論理を見いだす

評論(三) 言語文化を解きほぐす

評論(四) 芸術を読み直す

読解のレッスン(二) 文章を読み比べる

評論(五) 変化に対応する

評論(六) 多様性を見つめる

評論(七) 未来を構想する

実用文(一) 情報を使いこなす

1問 / 5問

解答

ふり返り

敬意

お返し

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。  
見返りを求めない。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
芽生える  
〈例文〉 生じはじめる。

1問 / 4問

解答

恵みを受ける

水気を帯びる

活性化する

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。  
地域社会が潤う。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
食い意地が張る  
〈例文〉 残り物を食べてしまうほど食い意地が張っていた。

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
ありありと

〈例文〉 練習の成果がありありと現れる。

解答を見る

1問 / 7問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。  
自他の間にあそびがない。

解答

- 思いやり
- ゆとり
- 譲り合い

1問 / 5問

次の表現の意味を答えよう。  
自見発結

〈例文〉 悲しい出来事があったが、人と相談せずに自見発結して気持ちをなやました。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。  
独りよがりな話。

解答

- 独創的
- 独占的
- 独善的

1問 / 3問

解答

棟上げ

本音

表向きの考え

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
子供は建前の理解が難しい。

1問 / 4問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
拘束  
〈例文〉 あらゆる身体拘束は、人権侵害の可能性を含む。

1問 / 2問

解答

本質

特性

高品質

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
紙にはないデジタルの特質。

1問 / 3問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
言いようのない  
〈例文〉 言いようのない不安が彼女の顔に見てとれる。

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。  
れっきとした

〈例文〉 彼の主張にはれっきとした根拠がある。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びよう。  
「殿」第六感とらわれる。

具体的に

通帯

とりわけ

解答

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。  
歓待

〈例文〉 海外からホームステイで来た学生を歓待する。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びよう。  
人間にとって有用である。

役に立つ

関係がある

能力が高い

解答

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
あずかり知る  
〈例文〉 当人のあずかり知らない出来事だ。

解答を見る

1問 / 6問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
驚く／／き進化を遂げる。

 驚いて当然 驚かない 驚きやうな

解答

## 「欠落」や「無」が重要な役割を果たしている芸術作品の例

### ①長谷川等伯 松林図しょうりんず屏風びょうぶ

安土桃山時代の絵師、長谷川等伯の五十代ごろの代表作（※参考リンク1）。六曲一双（六枚つながりの画面が左右一对となる屏風）。

墨の濃淡のグラデーションだけで松林の遠近が表現されている。荒々しい筆致で松だけを描きながら、画家の計算はいかに松の幹を消すかにある。左隻右側の松は、根本と上部の枝のみが描かれており、中ほどの幹は描かれていない。このことによって、消したところと周囲の余白に、目に見えない空気や霧、また左隻右端にみえる雪山へと続く松林の奥行きなどが意識させられる。原はら研けん哉やは、この作品について「描かれていないところは、何もないのではなく、松の不在によってむしろ壮大なイメージーションを誘発するおそるべき空白が出現している。」（『白百』）と述べている。

### ②サモトラケのニケ

紀元前二二〇年から紀元前一八五五年前に制作されたと考えられている勝利の女神ニケの大理石彫刻。一八六三年にサモトラキ島で発掘された。

頭部と両腕、両足は失われている。右腕のごく小さな断片から、右腕は体から離して、肘を曲げ上にあげていたと推測される。ほかの地域で発見されたニケ像の持ち物から、サモトラケのニケも同様に右手にトランペットや、冠、細い帯などを持っていたと考えられていた。ところが、一九五〇年に、サモトラキ島で、手の平を開き、親指と薬指を伸ばした右手（※参考リンク2）が出土した。この右手により、サモトラケのニケは右手には何も持っていなかったと推定された。その後、右手を反映させた復元予想図が描かれている。頭の位置と左腕だけは、今もなお仮説の域を出ない。

頭部と両腕が欠けていることによって、足から胴体、翼にかけての彫刻の構成ラインが見えやすくなっている。また、そのことによって、雄大な翼の表現や繊細な布のひだの表現が一層際立ち、この彫刻の魅力を増しているという指摘もある。



1問 / 5問

解答

保守的

現実的

急進的

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。  
あらゆる改革はラディカルである。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
押しただく  
〈例文〉 賞状を押しただき一礼した後、壇を去った。

1問 / 4問

解答

途中で

堂々と

しげしげ

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。  
専門家ほど任々ミスを犯す。

1問 / 3問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
誤認  
〈例文〉 驚くべきことに、その論文から多くの語句が見つかった。

1問 / 2問

次の表現の意味を答えよう。  
つかさどる

〈例文〉 心臓は血液循環をつかさどる重要な器官だ。

解答を見る

1問 / 2問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
後うめたさを伴う決断。

気がひけること

後悔

反発されること

解答

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
居並ぶ

〈例文〉 壇上に各賞の受賞者たちが居並んだ。

解答を見る

1問 / 7問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
連れ合いと仲直りする。

旧友

配偶者

ライバル

解答

1問 / 5問

解答

- 情報筋  
 通信環境  
 網状組織

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶほう。  
学校と地域社会とのネットワーク。

1問 / 8問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
可視化  
〈例文〉 学習内容を可視化することで、予定とおり勉強を進めることができた。

1問 / 5問

解答

- そっと  
 静かに  
 忙しく

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶほう。  
せわしなく手足を動かす。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
組成  
〈例文〉 高山の空気の組成を調べる。

1問 / 6問

解答

続いて

行って

協力して

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、何年にもわたって観察する。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
過剰  
〈例文〉 新商品を過剰に宣伝する。

1問 / 5問

解答

利便性

新しさ

巧妙さ

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選び、顔認証の利便性。

1問 / 5問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
万人不同  
〈例文〉 万人不同であるがゆえに指紋は重視されてきた。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
 提起  
 〈例文〉 税制について問題を提起する。

1問 / 5問

解答

- 珍しい意見  
 新しい意見  
 違った意見

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶほう。  
 異論を唱える者。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
 主体  
 〈例文〉 内閣は行政権の主体としての機能を有する。

1問 / 5問

解答

- 物陰から  
 物珍しく  
 よくよく

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶほう。  
 愛犬の姿を「げしげし」見つめる。

1問 / 6問

解答

- 人こみ  
 構内  
 里山

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
雑踏を通り抜ける。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
多少なりとも  
〈例文〉 多少なりとも事件と関係している。

1問 / 5問

解答

- ままじめ  
 乱暴  
 まじすぐ

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
不謹慎な言葉。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
踏みしだかれる  
〈例文〉 多くの人に踏みしだかれた芝生。

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。  
日本経済の将来を危惧する。

解答

予測

楽観視

心配

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
提唱  
〈例文〉 外国語学に関する新しい学習法が提唱され、実践されている。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。  
概して孤立度が高い。

解答

客観的に

ずっと

大まかに言って

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
孤独  
〈例文〉 経営者は孤独だと言われている。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。

なしたたり言えぬ。

解答

今のところ

あらう

はじきり

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。

メディア

〈例文〉 現代はさまざまなメディアに囲まれている。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選びなさい。

笑いかねない。

解答

笑いそう

笑わない

笑った

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。

充てる

〈例文〉 アルバイトで稼いだお金を学費に充てる。

解答を見る

1問 / 5問

解答

- はじめ  
 手本  
 傑作

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
 口語自由詩の嚆矢（嚆矢）となった作品。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
 対称的  
 〈例文〉 左右が対称的になっていない図形を用いた絵画作品

1問 / 5問

解答

- 連鎖  
 結果  
 回帰

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。  
 自らの選択の帰結。

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
 取り立てて  
 〈例文〉 取り立てて話すようなこともない一日だった。

1問 / 5問

次の表現の意味を答えよう。  
 包括

〈例文〉 世界各地の問題を包括して扱う。

解答を見る

1問 / 6問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
 規範的な主張。

広く通用する常識

厳密な論理

のよとむべき基準

解答

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。  
 法規

〈例文〉 交通法規を遵守して安全運転に努める。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
 師匠に劣らない出来栄。

匹敵する

対立する

優位である

解答

1問 / 5問

解答

予測

目盛り

勢い

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。  
見出しをつかめ。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
決め込む  
〈例文〉 知らないふりを決め込む。

1問 / 5問

解答

品定めする

ほめる

そっじする

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選択しよう。  
建家を品定。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
儼然<sup>げんぜん</sup>  
〈例文〉 突然の病気の宣告に儼然とした。

## 銀座の雨

北原白秋



雨……雨……雨……

雨は銀座に新らしく

しみじみとふる、さくさくと、

かたい林檎の香のごとく、

舗石の上、雪の上。

黒の山高帽、狷虎の毛皮、

わかい紳士は濡れてゆく。

蝙蝠傘の小さい老夫婦も濡れてゆく。

……黒の喪服と羽帽子。

好いた娘の蛇目傘。

しみじみとふる、さくさくと、

雨は林檎の香のごとく。

はだか柳に銀緑の

冬の瓦斯点くしほらしき、

柵の硝子にふかぶかと白い毛物の春支度。

肺病の子が肩掛の

弱いためいき。

1 波斯の絨氈、

洋書の金字は時雨の霊

2 *Henri De Renier* が曇り玉

息ふきかけてひえびえと

雨は接吻のしのびあし、

さても緑の、宝石の、時計、磁石のわびごろ、

わかい<sup>3</sup> ロテイのものおもひ。

絶えず顫へていそしめる

お菊夫人の縫針の、人形ミシンのさざめごと。

雪の青さに片肌ぬぎの

4 たばもつやめく髪型の型、つんとすねたり、<sup>5</sup> かもじ屋に

紺は匂ひて新らしく。

白いピエロの涙顔。

熊とおもちやの長靴は

児供<sup>こども</sup>ごころにあこがるる

サンタクロスの贈り物。

外はしとしと淡雪に

沁みて悲しむ雨の糸。

雨は林檎の香のごとく  
しみじみとふる、さくさくと、  
扉を透かしてふる雨は

6 Verlaineの涙雨、

赤いコツプに線を引く、  
ひとり顫へてふりかくる  
辛い胡椒に線を引く、  
されば声出す針の尖、蓄音器屋にチカチカと  
廻るかなしき、ふる雨に

酒屋の左和利、7三勝もそつと立ちぎく忍び泣き。

それもそうかえ淡雪の

光るさみしき、うす青さ、

白いシヨウルを巻きつけて

鳥も鳥屋に涙する。

椅子も椅子屋にしょんぼりと

白く寂しく涙する。

猫もしょんぼり涙する。

人こそ知らね、アカシヤの

性の木の芽も涙する。

雨……雨……雨……

雨は林檎の香のごとく

冬の銀座に、わがむねに、

しみじみとふる、さくさくと。

(『白秋全集3』岩波書店 一九八五年)

【語注】

1 波斯 イランの旧称。

2 Henri De Renier 一八六四—一九三六。フランスの詩人・小説家。

3 ロテイ Pierre Loti 一八五〇—一九二三。フランスの小説家。自身の経験をもとにした小説『お菊さん』は一八八七年刊。

4 たば 日本髪（たば）の、背のほうに張り出した部分。

5 かもじ 女性が髪を結うときに補ってつける添え髪、入れ髪。

6 Verlaine Paul Marie Verlaine 一八四四—一八九六。フランスの詩人。

7 三勝 浄瑠璃『艶容女舞衣』などの題材となった江戸時代前期の女舞芸人。『艶容女舞衣』は酒屋の段で有名。



1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。  
月並み  
〈例文〉 月並みな言葉で慰められる。

1問 / 6問

解答

- 手招きする
- 身構える
- 何もしない

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぼう。  
適手をやる。

## 青年（拊石の演説部分）

森鷗外



幹事らしい男に案内せられて、はしごを登ってくる、拊石ふせきという人を、どんな人かと思つて、純一は見ていた。

少し古びた黒の<sup>1</sup>羅紗服らしふくを着ている。背丈は中ぐらいである。顔の色は蒼あざいが、アイロニイを帯びた快活な表情である。世間では鷗村おうそんと同じように、<sup>2</sup>継子根性まねこのねじくれた人物だと言っているが、どうもそうは見えない。少し赤みがあった、たつぷりある八字髭じひげが、油気なしに上向きにねじ上げてある。純一は、髭というものは白くなる前に、四十代で赤みがかってくる、その頃でなくては、日本人では立派にはならないものだと思つた。

拊石は上がり口で大村を見て、「何か書けますか。」と声をかけた。

「どうも持つて行って見ていただくようなものできません。」

「あつと無遠慮に世間へ出して見たまえ。活字は自由になる世の中だ。」

「あまり自由になり過ぎて困ります。」

「活字は自由でも、思想は自由でないからね。」

緩やかな調子で、人に強い印象を与える言葉つきである。強い印象を与えるのは、常に思想が<sup>3</sup>靈活りっかに動いていて、それをびつたり適応した言語で表現するからであるらしい。

拊石は会計係の机のそばへ案内せられて、座布団の上へ胡坐かまどをかいて、小さい紙巻きの煙草を出して呑んでいると、幹事が卓の向こうへ行つて、紹介の挨拶をした。

拊石は不精らしく体を卓の向こうへ運んだ。方々の話し声の鎮まるのを、しばらく待っていて、ゆっくり口を開く。ふだんの会話のような調子である。

「諸君から<sup>4</sup>イブセンの話をしてもらいたいということがありました。私もイブセンについて、別に深く考えたことはない。イブセンについての私の知識は、諸君のすでに有しておられる知識以上に何物もあるまいと思う。しかし知らないことを聞くのは骨が折れる。知っていることを聞くの気楽なるにしかずである。お菓子が出ているようだから、どうぞお菓子を食べながら気楽に聞いてください。」

こんな調子である。声色を励ますというようなところは少しもない。それかと言つて、評判に聞いている雪嶺せつりやうの演説のように訥弁ねつべんの能弁だというでもない。平板極まるうちに、どうかすると非常に奇警な言葉が不用意にして出てくるだけは、雪嶺の演説を速記で読んだときと同じようである。



だいたいが進んできてから、こんなことを言った。「イブセンは初め諾威の小さなブセンであって、それが<sup>5</sup>社会劇に手をつけてから、大きな歐羅巴のイブセンになったというが、それが日本に伝わってきて、またずっと小さいイブセンになりました。なんでも日本へ持つてくると小さくなる。<sup>6</sup>ニイチエも小さくなる。<sup>7</sup>トルストイも小さくなる。ニイチエの言葉を思い出す。地球はそのとき小さくなった。そしてその上に何物をも小さくする、最後の人類がひよこひよこ跳っているのである。我らは幸福を発見したと、最後の人類は言って、目をしばだたいたのである。日本人は色々な主義、色々なイズムを輸入してきて、それを弄んで目をしばだたいている。何もかも日本人の手に入っては小さいおもちやになるのであるから、元が恐ろしいものであったからといって、剛がるには当たらない。何も<sup>8</sup>山鹿素行や、<sup>9</sup>四十七士や、<sup>10</sup>水戸浪士を地下に起こして、その小さくなったイブセンやトルストイに対抗するには及ばないのです。」まあ、こんな調子である。

それから新しいことでもなんでもないが、純一がこれまで蓄えて持っている思想の中心を動かされたのは拈石が諷刺的な語調から、忽然真面目になって、イブセンの個人主義に両面があるといふことを語り出したところであった。拈石はまず、しだいにあらゆる習慣の縛を脱して、個人を個人として生活させようとする思想が、イブセンの生涯の作の上に、いわゆる赤い糸になって一貫していることを言った。「種々の別離を己は聞きた」というような心持ちである。これを聞いている間は、純一もこれまで自分が舟に棹さして下ってゆく順流を、演説者も同舟の人になって下っていくように感じていた。ところが、拈石は話頭を一転して、「これがイブセンの自己の一面です、Peer Gynt<sup>11</sup>は別に<sup>12</sup>出世間の自己があって、始終向上してゆこうとする。それがBrand<sup>13</sup>において発揮せられている。イブセンは何のために習慣の朽ちたる索を引きちぎって棄てるか。ここに自由を得て、身を泥土に委ねようとするのではない。強い翼に風を切って、高く遠く飛ばうとするのである。」純一はこれを聞いていて、その語気が少しも莊重に聞かせようとする様子でなく、依然として平坦な会話の調子を維持しているにもかかわらず、無理に自分の乗っている船の舳先を旋らして逆に急流を溯らせられるような感じがして、それからしばらくの間は、独りで深い思量に耽った。

たとえば長い間集めた物を、いちいち心覚えをして箱に入れて置いたのを、人の上に下へとかき混ぜられたようなものである。それを元のとおりにするのは難しい。いや、元のとおりにしようなんぞとは思わない。元のとおりでなく、どうにか整頓しようと思う。そしてそれができないのである。できないのは無理もない。そんな整頓はもとより一朝一夕にできるはずの整頓ではないのである。純一の耳には拈石の言葉が遠い遠い物音のように、意味のない雑音になって聞こえている。

純一はこの雑音を聞いているうちに、ふと聴衆の動揺を感じて、ほとんど無意識にそばだけると、ちょうど拊石がこう言っていた。

「12ゾラのClaudeは芸術を求める。イブセンのブランドは理想を求める。その求めるもののために、妻をも子をも犠牲にして顧みない。そして自分も滅びる。そこを敷衍に睨んで、ブランドを諷刺だとさえ言ったものがある。実はイブセンは大真面目である。大真面目で向上の一路を示している。悉皆か絶無か。この理想はブランドという主人公の理想であるが、それが自己より出でたるもの。自己の意志より出でたるものだというところに、イブセンの求めるものの内容が限られてゐる。とにかく道は自己の行くために、自己の開く道である。倫理は自己の遵奉するために、自己の構成する倫理である。宗教は自己の信仰するために、自己の建立する宗教である。一言で言えば、13 Autonomieである。それを公式にして見せることは、イブセンにもできなただであらう。とにかくイブセンは求める人であります。現代人であります。新しい人であります。」

拊石はこう言ってしまうと、聴衆が結論だかなんたかわからずにいるうちに、ぶらりとテエブルを離れて前に座っていた座布団の上に戻った。

あちこちに拍手するものがあつたが、はたが応ぜないので、すぐに止んでしまった。多数は演説が止んでもじっと考えている。一座は非常に静かである。

幹事が閉会を告げた。

下女が鰻飯の丼運び出す。方々で話し声はちらほら聞こえてくるが、その話もしめやかである。自分自分で考えることを考えているらしい。縛めがまだ解けないのである。

幹事が拊石を送り出すを合図に、会員はそろそろ帰り始めた。

(『鷗外全集 第六巻』岩波書店 一九七二年)

\*採録にあたっては、教科書に準じて表記を改めています。

### 【語注】

1 羅紗 羊毛などで作られる、厚手の毛織物の一種。

2 継子根性 人になつきにくい、ひがんだ根性をさす古い言い方。

3 靈活 活気があるさま。機敏であるさま。

4 イブセン Henrik Ibsen (一八二八—一九〇六)。ノルウェーの劇作家。『ブランド』(Brand)は一八六五年に、『ペール・ギュント』(Peer Gynt)は一九六七年に作られた戯曲。

5 社会劇 社会問題を主題として、登場人物の置かれた社会環境や階級を重視する演劇。



6 ニイチェ Friedrich Wilhelm Nietzsche (一八四四―一九〇〇)。ドイツの哲学者。「最後の人類」(Letzter Mensch) は『ツァラトゥストラはこう語った』の中の言葉で、あこがれを持たず安樂のみを求めて生きる人々をさす。

7 トルストイ Lev Nicolaevici Tolstoi (一八二八―一九一〇)。ロシアの思想家・小説家。

8 山鹿素行 一六二二―一六八五。江戸時代前期、赤穂藩に仕えた儒学者・兵学者。

9 四十七士 『仮名手本忠臣蔵』などのもととなった赤穂事件に参加した旧赤穂藩士。

10 水戸浪士 江戸時代末期、尊王攘夷運動で中心的な役割を果たした水戸藩の浪士。

11 出世間的 俗事を離れ、超然としているさま。

12 ソラ Emile Zola (一八四〇―一九〇二)。フランスの小説家。Claudeは『クロードの告白』(一八六五年刊)の主人公。

13 Autonomie 自律性。

あ か さ た な は ま や ら わ

### あ

**アーカイブ** 古い記録を長期的にわたって保管しておく書庫や公文書館。転じて、当面使う見込みのない古いデータを保管しておく場所のこと。

**アーキテクチャー** 建築学における「建築様式」をさす言葉。そこから派生してコンピュータシステムの共通仕様や、人間の行為を制約したり一定の方向へ誘導するような構造（たとえばファストフード店の硬い椅子が長居をさせず結果的に回転率を上げるなど）をさすようになった。

**アイデンティティ〈自己同一性〉** 自分は自分であるという実感を持つこと。自分という存在の独自性についての認識。一般に**アイデンティティは他者との関係性において確立する**が、これがうまく保てない状態を「アイデンティティクライシス（自己喪失）」という。

**関連 自分探し** 自分の現状に満足できず、どこかに「本当の自分」という存在があると探して探し求めること。  
**関連 キャラ** 「キャラクター」の略。ただし、「キャラクター」は持続的な性格とそれを支える環境を想起させるが、「キャラ」はその存在自体が独立している印象を与え、ある集団における振る舞い方の類型的な役割（「○○キャラ」など）をさす用語である。近年、素の自分ではなく、特定の**キャラ**を演じるという行動様式が見られる。キャラを演じることで集団内の**コミュニケーション**が円滑化される反面、人間関係が表面的になるとの指摘もある。

**アート**  
↓ **芸術**

**アイコン** 事物を簡略化した図柄で記号化したもの。コンピュータ上の記号表記をさす場合が多い。  
↓ **記号**

**アイロニー** 自分が言おうとしていることと、反対の表現を使って効果的に示すこと。遅刻してきた人に「お早いですね」などということ。反語、**逆説**、皮肉。イロニー。

**アウフヘーベン〈止揚〉** 矛盾や対立をより高い次元で一つの結論に統一すること。**弁証法**により望ましい結論に至ること。  
↓ **弁証法**

**アウラ** 芸術作品がいま・ここに結びついてその**一回性**に基づいて現象する特有の雰囲気。ドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンが定義した語。ベンヤミンは、写真などの複製技術時代の芸術作品においてはアウラが凋落する（指摘している）。

**アカデミズム** 芸術や学問において、純粋性や正当性を重視する立場。あるいは伝統、権威を重んじる立場のこと。現実や実践から離れた、学問至上主義的な考えに陥りやすいとされる。

**アサイン** 任命すること。割り当てること。  
**アセスメント** 人や物事を客観的に評価・分析すること。

**アナロジー** 類推すること。物事の間の類似する部分に着目して結びつけること。

あ か さ た な は ま や ら わ

**アニミズム** ある現象の中に靈魂を認め崇拝すること。  
**関連 一神教** 唯一の神のみを信仰する宗教。キリスト教やイスラム教など。

**関連 多神教** 複数の神々を同時に信仰する宗教。神道やヒンドゥー教など。  
↓ **神**

**ア・プリオリ** 経験に先立つこと。前提としてあるもの。先天的に。  
**対 ア・ポストエリオリ** 経験に基づくこと。後天的に。あとから。

**ア・ポストエリオリ** 経験に基づくこと。後天的に。あとから。  
**アレゴリー** 抽象的な概念を具体的な事物で暗示的に示すこと。寓意。

**アンチテーゼ** ある命題に対しての否定的主張。反指定。  
↓ **弁証法**

**アンバサダー** 大使。使節。代表。代理人。  
**アンビバレント** 相反する感情や意見を同時に持つ様子。また、一つのものに相反する**価値**が併存する様子。

↓ **両義的**  
**暗黙知** 「言語化されていない知」のこと。経験的に使っている知識だが簡単に言葉で説明できない知識。対義語は形式知。

↓ **知**

**位相** ①数学において、集合に含まれる要素どうしのつながりを示す概念。トポロジー。②周期的に繰り返す現象の中の、ある特定の局面。③社会的な属性や、**コミュニケーション**方法などの違いから、言葉に違いが生じる現象。④転じて、社会におけるレベル。立場。そこから見えるありさま。

**関連 次元** 元は、一般的な空間の広がりを表す語。直線を二次元、平面を二次元、空間を三次元と呼ぶことから、レベルや立場を表すようになった。転じて、マンガやアニメーション、ゲームなどを「次元」と、それらを原作としたミュージカルや演劇などの舞台**芸術**を「二・五次元」と呼ぶことがある。

**異端** 正統から外れていること。  
**一義的** 意味が一つであること。多くの事柄を一つの意義や観点からまとめて捉えること。根本として捉えていること。  
**関連 両義的** 相反する二つの意味を同時に持ち、どちらにも取ることが可能なこと。

**関連 多義的** 複数の意味を持つていること。複数の意味に解釈できること。  
**一元化** 分裂している問題や組織を一つに統一すること。

↓ **一元論**  
**一元論** さまざまな現象が一つの根本原理に基づいて成立していると考えること。  
**関連 二元論** 物事を相対立する二つの原理によって説明しようとする考え方。デカルトの**物心二元論**が代表的。  
**関連 多元論** 物事が一つの原理ではなく、多様な原理によって独立して成立していると考えられること。

**一回性** ある事項が一回しか起こらず再現できないこと。

**関連 アウラ** 芸術作品が「ま・こ」に結びついてその一回性に基づいて現象する特有の雰囲気。ドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンが定義した語。ベンヤミンは、写真などの複製技術時代の芸術作品においてはアウラが凋落すると指摘している。

↓再現性

**一神教** 唯一の神のみを信仰する宗教。キリスト教やイスラム教など。

↓神

**一般化** さまざまな事柄から一つの原理を導き出して捉え直すこと。

**イデオロギー** 人間の意識や行動を支配する**観念**。思想傾向、とくに政治・社会思想をさすことが多い。

**イノベーション** 新しい技術の発明(技術革新)のこと。広義には、社会的な新たな価値を創造して大きな変化をもたらす変革をさす。

**因果関係** 原因と結果の関係。法律上では、犯罪や不法行為などをした者が負担すべき責任の根拠の一つとして、行為と結果との間にあると認められるつながりをさす。

**インセンティブ** 個人などの意思決定主体が、行動を起こす原因となるものこと。誘因。

**インターンシップ** 学生が自分の適正を把握するために、在学中に一定期間に企業内で就業体験を行うことをいう。

**インテリジェンス** ①知性、知能、理解力。②情報、諜報。

↓知

**インバンド** 外国人が日本を訪れる旅行のこと。訪日外国人旅行、または訪日旅行ともいう。

**インフラストラクチャー** 産業や生活の基盤となる施設のこと。道路、水道、電気、通信網、公共交通機関、学校、病院、公園など。インフラ。

**インフルエンサー** 他の人々に大きな影響力を及ぼす人物。**SNS**などインターネット上で影響力を持つ人物をさすことが多い。

**陰謀論** ある状況に、根拠の有無にかかわらず何らかの集団、組織が関与していると断定したり信じたりしようとする考え方。

**隠喩(メタファー)** 「ようだ」「ごとし」などの語を使わず、**比喩**であることを明示しない形式の**比喩**。暗喩。「人生は旅だ」など。

↓比喩

**ウーマンリブ** 1960年代後半から1970年代前半にかけて起こった女性解放運動。「リブ」は「解放」を意味するLiberationの略。

**関連 メンズリブ** 男性が自身の性規範を批判的にとらえ、従来の男性観を問い直し、見直そうとする思想や運動。

↓フェミニズム

↓ジェンダー

**ウチとソト** 家族・学校・会社・地域など同族意識のあるものを**ウチ**とし、それ以外を**ソト**とする日本特有の精神的な区分。

**エートス** ある集団を**支配**する倫理や慣習。行為の反復により獲得される。

**エキゾチシズム** 異国情緒、異国趣味。**関連 オリエンタリズム** 西洋人がオリエント(東洋)に対して抱く神秘的な印象。パレスチナ系アメリカ人の文学批評家サイードは、西洋人が東洋に対して自分たちの都合のいいように持つ**観念**は、西洋側が植民地**支配**を正当化する根拠として利用した差別的な偏見の総体であると指摘した。

**エクリチュール** フランス語で「書かれたもの」「書く行為」といった言語表現の総体をさす語。哲学において、書き言葉がそれを記した者の統御下にないことを強調する場合に用いられる。「パロール(話し言葉)」と対比される。

**エコイズム** 自分本位に考えて行動する姿勢。利己主義。

**エコロジ** 人間と自然の調和や共生などをさす。もともとは「生態学」を意味する語。

**関連 生態系** 生物とそれを取り巻く環境を全体的に捉えたもの。生態系についての学問を「生態学(エコロジー)」という。テカルトは**物心二元論**によって、**自然と人間**を切り離して考える**近代的思考**をもちしたが、生態学はこうした**自然と人間**の関係を見つめ直すものでもある。

**エスニシティ** 人類学用語で、共通の言語、宗教、生活習慣、歴史を基盤とした文化的な**民族**集団のこと。また、ある民族が持つ性質や気風、心性のこと。

↓民族

**エスノセントリズム** 自分の育ってきた民族や人種の文化を中心に考え、他の文化を低く評価する態度や思想のこと。**自文化中心主義**とも呼ばれる。

↓**グローバル化(グローバルイゼーション)**

**エビデンス** 証拠。根拠。**科学的な裏付け**となるデータ。

**演繹(スチグマ)** 普遍的な原理から個別のな原理を導くこと。「人は必ず死ぬ(大前提)」↓「ソクラテスは人である(小前提)」↓「だからソクラテスは必ず死ぬ(結論)」と結論を導き出す方法を三段論法という。

**対 帰納** 個別のな事象から**普遍的な原理**を導き出すこと。

**援用** 自分の考えの根拠として他の文献や事実を引用すること。

**大きな物語** 「社会や自由は発展拡大していく」といった**社会**全体で共有されている**価値体系**。元はフランスの哲学者リオターの言葉で、科学がそれ自身を正当化するための語りをさす。リオターは「こうした「大きな物語」が解体していく時代が**ポストモダン**であると説いた。

↓近代(モダン)

**オノマトペ** 擬音語と擬態語を総称したも。擬音語は人や動物、物が発する音をまねて表す言葉。擬態語は雰囲気や状態を象徴的に表す言葉。

### オリエンタリズム

西洋人がオリエント（東洋）に対して抱く神秘的な印象。パレスチナ系アメリカ人の文学批評家サイードは、西洋人が東洋に対して自分たちの都合のいいように持つ**観念**は、西洋側が植民地支配を正当化する根拠として利用した差別的な偏見の総体であると指摘した。

#### ↓ エキゾチシズム

#### ↓ ポストコロニアリズム

**オリジナル** ①複製、模倣されたもの元となるもの。②原物。③原作、原曲。④独創的。

**関連 アウラ** 芸術作品がいま・ここに結びついてその**一回性**に基づいて現象する特有の雰囲気。ドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンが定義した語。ベンヤミンは、写真などの複製技術時代の芸術作品においてはアウラが凋落すると指摘している。

#### ↓ ミニエュークル

## か

**外延** ある概念が適用される具体的な事物の範囲のこと。

**対 内包** ある概念が適用される事物が持つ共通の性質のこと。

**蓋然性** あることが起こるかどうか、または、ある知識が真実であるかどうかの「確からしさ」の度合い。

**概念** 物事の意味内容。**概念**は言葉を使って表現されることだが、「概念とは言葉である」と言いつつ「概念なき」

**外発的** 他からの刺激や影響によって生じうるさま。

**対 内発的** 内部からの欲求に基づき、おのずと生じうるさま。

**カオス** **混沌**・**濁沌**。「**ノースモス**秩序」に対立する語で、物事が混じり合っており区別がつかない状態。無秩序な状態から何かが誕生するという捉え方をする場合、肯定的に捉えられる。

#### ↓ 複雑系

**科学** 人間から切り離された**自然**の内に見いだされる法則性を探究する学問。広義には人文科学・社会科学を含むが、主に自然科学をさす。実験などを経て同じことが何度でも起こること**〈再現性〉**が十分に確かめられると法則と呼ばれる。**科学**は善でも悪でもない**〈価値中立〉**とされてきたが、**科学**も知の**パラダイム**から独立しているとは言いがたく、戦争や環境破壊などを論じる際には一つの思想的立場と見なされることもある。

#### ↓ 仮説

**ガジェット** ①特定の機能を持つ小型の電子機器。スマートフォンやタブレット、ウェアラブルデバイスなど。②コンピュータのデスクトップ上で動作する小型のアプリケーション。時計、カレンダーなど、日常的な情報を手軽に提供するもの。

#### ↓ 仮説

ある現象や法則性についての説明としてもっともらしいが、まだその内容が実際には確かめられていない**命題**のこと。その仮説が真であり得るかどうかは、その正否が一回限りの現象ではなく何回でも再現できるものであるかどうかによる。

**関連 再現性** 特定の現象や実験が、同じ条件のもとであれば同一の結果を与えるような性質を持つこと。

#### ↓ カタルシス

わだかまりや苦悩が、あるきっかけで解消されること。抑圧された感情が、言葉や行動で表すことによって解放されること。悲劇を見たりすることで、自己の感情が浄化されること。

#### ↓ 価値

価値 値打ち。価値は人間との関わりの中で生まれ、人間にとって有益であるかが基準となる。したがって、**文化**や時代、個人の考え方によって異なる。

#### ↓ カテゴリー

事柄の性質を分類するための基本的な枠組み。**範**はん疇ちゅう。範囲。部門。

#### ↓ ガバナンス

企業経営を管理・監督する仕組み。コーポレート・ガバナンス。統治。

#### ↓ 貨幣

価値の尺度、交換の媒介、価値の蓄蔵の機能を持ったもの。貨幣の素材の価値は額面と一致しない場合も多く、それを使用する社会のメンバーが、そのものに価値があると認めていることが**価値**の裏付けとなる。

### 神

世界の根拠となるもの。世界を解釈する**価値観**を具象化したもの。ヨロップバ近代は絶対者である**神**からの解放によって始まった。ニーチェはこの状況を「**神は死んだ**」と述べた。**神**は唯一絶対とする**一神教**と、多くのものに宿るとする**多神教**とがある。

#### ↓ 一神教

唯一の**神**のみを信仰する宗教。キリスト教やイスラム教など。

#### ↓ 多神教

複数の**神々**を同時に信仰する宗教。神道やヒンドゥー教など。

#### ↓ アニミスム

ある現象の中に**霊魂**を認め崇拝すること。

#### ↓ カルト

元は、主流派を批判する急進的な宗教を指す語であったが、現在は、反社会的で人権侵害を繰り返す集団という意味で使われることも多い。

#### ↓ 環境

人間を中心とする生物・生態系を取り巻く周囲の世界。環境とのかわりの中で**人間の**生き方を問うことを環境倫理という。環境倫理は、生態系と未来世代の権利を認めるため、人間中心主義や**進歩主義**と対立する。

#### ↓ 気候変動

**環境ガバナンス** **社会**が**環境**を管理する能力や仕組みのこと。

#### ↓ 還元主義

複雑な事象を、それを構成する根本的な要素に立ち戻って解釈する考え方。物事の複雑性を無視して単純化するような、要素全体を総合する視点を欠いた**科学的**立場をさして、批判的な意味で使われる場合もある。

#### ↓ 複雑系

**監視** 権力を持つ組織が個人を常に見張ること。中央に高い塔を置き、その周囲を取り巻くように監房を配置した刑務所の形式を「パンブティン」というが、フーコーはこの原理が権力技術として近代社会全域に應用されていると指摘した。現代において、人々は物理的な方法だけではなく、データや情報によっても監視されるようになりつつある。

**間主観性** 複数の主観の中で共通して成り立っている様子。現象学においては、自分と他者は同じ世界を経験しているに違いないという私の確信をさす語。オーストリアの哲学者フッサールが用いた。

**感性** 外界の刺激を五感で受け止める能力。  
**対** **理性** 合理的に判断し、行動する能力。知。個人は**理性**によって統御されるべきとするのが近代の考え方。

**観念** 頭の中にある、物事に対する意識やイメージ。物事をどのように捉えるかという内容。「観念的」という場合、理屈だけで現実離れしている様子をさすことが多い。

**換喩** **メトニミー** → **比喩**の一種。ある事物を表すのに、それと深い関係のある事物で置き換える法。「永田町」が「国会」を、「ホワイトハウス」が「アメリカの最高権力」を表すなど。

**↓比喩**  
**機械論的自然観** 自然は精神を持たない単なる物質で、一定の因果関係によって動くとする考え方。「ここから近代科学にも見られる、自然を操作し支配することができる」という態度が生まれた。

↓物心二元論

**記号** 意味を持つもの。しるし。ある形にある決まったコードをあてはめると意味が生じる。たとえば、「+」に「数字」というコードを適用すると「加える」という意味が発生する。同じ記号でもコードが変わると意味が変わる。コードのはたらかで意味を生じるものはすべて**記号**と見なすことができる。制服が権威を表す**記号**になると、**文化的現象**の多くは**記号**として捉えることができる。

**関連** **アイコン** 事物を簡略化した図柄で記号化したもの。コンピュータ上の記号表記をさす場合が多い。  
**関連** **コード** 何かを運用する際のきまり。規則、慣例、符号。「法典」を意味する言葉に由来するとも言われ、「ドレスコード」などのように「規約」や「行動規範」といった意味でも用いられる。**コミュニケーション**においては、発信者と受信者のコードの共有が前提となっており、同じ言葉でもコードが異なると意味するものが異なる。転じて、コンピューターが実行すべきデータや命令を表現したのもこのコードと呼ばれる。

**気候変動** 気温や気象パターンの長期的な変化のこと。環境問題においては地球温暖化とその影響をさすことが多い。

**疑似科学** 科学的だと主張されている、あるいは**科学**のように見えるにもかかわらず、実際には**科学**の方法とは相容れない性質を持つ言明、信念、行為のこと。似非科学、偽科学。

**技術** 科学的な成果を人間の生活に役立たせる技。  
**↓テクノロジー**

**帰属意識** ある特定の集団の一員であるという意識。もとは**精神分析学**の用語であるが、社会学では、ある集団の社会的役割を内面化し、それを自分のものとして達成するために努力すること、それを通して自分をその集団の成員と考えることをさす。

**↓ナショナリズム**  
**帰納** 個別的事象から普遍的な原理を導き出すこと。

**対** **演繹** **普遍的な原理**から個別的な原理を導くこと。「人は必ず死ぬ」(大前提) → 「ソクラテスは人である(小前提)」 → 「だからソクラテスは必ず死ぬ(結論)」と結論を導き出す方法を三段論法という。

**規範** 行動や判断の基準となるもの。指示や価値判断を示す**命題**からなる。法規範や社会規範、道徳や倫理など。

**義務** 理性、道徳・倫理、宗教、法制度(法令・契約など)、慣習などを根拠に「従うべき」とされること。義務に反した場合には、**精神的**、**物理的**、**社会的な制裁**が課されることもある。

**逆説** **ヘラドクソス** → ①一見真理に反するように見えながらよく考えると真理を言い表しているような表現。ことわざには、「負けるが勝ち」「急がば回れ」など**逆説的**な表現が多い。②一見自明で正しいように見えながら実は矛盾をはらむ**命題**。「クレタ人は嘘つきである」クレタ人は言った」という**命題**が有名。③事実と反する結論であるにもかかわらず、その説に反発する正当な論拠を示しがたいもの。古代ギリシアのゼノンが提出した「飛ぶ矢は飛はない」「アキレウスはカメに追いつけない」など有名。

**客体** 主体の認識や行動の対象。「客体化」は、物事を**客観的**に見ること。  
**対** **主体** 自ら物事を認識したり、行動したりするもの。

**客観** 主観を超えた**普遍的な認識**。当事者としてではなく、第三者の立場から見ること。  
**対** **主観** 主体が捉えた**客体**のありよう。ある個人のものの見方。

**キャラ** 「キャラクター」の略。ただし、「キャラクター」は持続的な性格とそれを支える環境を想起させるが、「キャラ」はその存在自体が独立している印象を与え、ある集団における振る舞い方の類型的な役割(「○○キャラ」などをさす用語)である。近年、素の自分ではなく、特定のキャラを演じるという行動様式が見られる。キャラを演じることで集団内の**コミュニケーション**が円滑化される反面、人間関係が表層的になるとの指摘もある。  
**↓アイデンティティ** **自己同一性**

**共時的** スイスの言語学者ソシュールの用語。ある現象を一定時期における静止現象と捉え、その構造を体系的に記述しようとする姿勢。  
**関連** **通時的** 言語学者ソシュールの用語。関連する複数の現象や体系を、時間の流れに沿って記述しようとする姿勢。

**共通語** ①ある地域や集団間で広く通じる言語。ヨーロッパにおけるラテン語など。②一つの国の中で、地域・階層の違いを超えて互いに伝えることができる言語。日本では東京語がこれにあたる。

**関連** **標準語** 公用文や教育、放送などで用いる規範的な言語。明治政府が東京の山の手地区で使われていた言語を基に作った。

**関連** **方言** ある地域で使われている言語。

**共同体** コミュニティ 村落や家族など、地縁や血縁によって自然に結びついた人々の集合。近代以降は、人々が自律的、流動的になったため、個人という意識が生まれた。

**関連** **社会** 生きるための関わり合う二人以上の人間が作るもの。

**虚構** ①「くりこむ」。近代的な制度なども虚構として相対化する場合がある。②文学などにおいて、想像力によって現実の事柄のように真実味を持たせて書くこと。フィクション。

**虚無主義**

↓ニヒリズム(虚無主義)

**禁忌**

↓タブー(禁忌)

**近代(大)タリ** 科学技術(テクノロジー)の発達で工業化が進み、社会全体が豊かになった時代。一般的に、西洋では十五世紀から十六世紀以降を、日本では明治維新以降を近代と呼ぶ。近代を特徴づける思想傾向として、個人主義、合理主義、自由主義などがあげられ、科学技術の進歩と結びついた産業資本主義の発達は近代化の起動力とみなす考えが有力である。その意味ではヨーロッパ先進諸国による非ヨーロッパ諸地域の植民地化があった。産業革命のもたらした豊かさは、個人という意識を生み出し、近代的自我を育んだ。世界は豊かさを求めて一元化する方向に動いている。

**関連** **ポストモダン** 「ポスト」は次、後という意味。もとは、機能主義と合理主義に基づく近代建築(モダニズム)を脱しようとする新たな建築方式をさす。そこから派生して、近代的な社会・制度・思想等を批判し、消費社会や情報社会と呼ばれる現代に対応した知のあり方を模索する思想的・文化的な傾向をさすようになった。リオタールは、近代には社会や自由は発展・拡大していくといった「大きな物語」が信じられていたが、現代では情報化が進み、価値観が多様化したため、一方的な右肩上がりの「大きな物語」は終焉したとした。また、ドゥルーズ、デリダ、フーコーなどの活動した「ポスト構造主義」のことを「ポストモダン」ということもある。

↓グローバル化(グローバルイゼーション)

↓大きな物語

**具体** それぞれに実体のある明確なあり方。

**対** **抽象** 物事の性質などの共通性を捉えること。

**クレオール** 言語・文化などが混交する現象。もともとは植民地で生まれたスペイン人やフランス人をさした。交易などのためヨーロッパ言語と非ヨーロッパ言語が混じってできた言語が母語化したものを「クレオール言語」という。

**グローバル化(グローバルイゼーション)**

物事が世界規模に拡大すること。世界化。近代がもたらした豊かさを求めて世界中の価値観が同一化されること。こうした動きによって、逆に国家・民族・宗教意識を高め、ナショナリズムに結びつく場合もある。経済的には資本主義が世界に広がることで世界の最貧困層を減少させた反面、国家間の格差を広げたととも言われる。また、かつて存在した国境を越えた文化の紐帯(きんたい)をよみがえらせる契機(きせき)になっているという見方もある。

**クローン** 広義には、同一の起源を持ち、均一な遺伝情報を持つ個体の集団。狭義には特定の遺伝子から作られたコピーのこと。ネコ、ウマ、ヤギ、ウサギ、ブタ、ラット、ラクダ、サルなど多くの哺乳動物で人工的なクローン作成の成功例が報告されているが、ヒトのクローン作成は禁止している国がほとんどであり、倫理的な見地からクローン技術を批判する声もある。他方、クローン技術は移植のための臓器複製の研究にも利用されている。

**ケ** 日常的なこと。普段の生活。

**対** **ハレ** 儀礼や祭、年中行事などの非日常的なこと。

**ケアの倫理** 他者の悩みに個別的に寄り添おうとする姿勢をいう。アメリカの発達心理学者キャロル・ギルガンが提唱した概念。

**形而下** 形に表れていて感覚で存在を知ることができる物質的なもの。

**対** **形而上** はっきりした形がなく、感覚では認知できない観念的なもの。本質。現実から離れて抽象的になっている様子を概念的に「形而上的」ということがある。

**形而上** はっきりした形がなく、感覚では認知できない観念的なもの。本質。現実から離れて抽象的になっている様子を概念的に「形而上的」ということがある。

**対** **形而下** 形に表れていて感覚で存在を知ることができる物質的なもの。

**芸術** 世界をどう捉えるかを表現するもの。人類の知の一つ。科学が合理的なものを相手にしたのに対して、芸術は合理的に説明できない人間のあり方について表現しようとした。絵画・彫刻・建築などの空間芸術、音楽・文学などの時間芸術、演劇・映画・舞踊・オペラなどの総合芸術などがある。

**啓蒙思想** 近代の合理的精神に基づいて、迷信・偏見・宗教的権威などを不合理なものとして取り払い、理性の自立を促す思想。「光で照らされること」が原義。啓蒙主義。

**対** **ロマン主義** 近代合理主義に対して人間の個性と感情を重視する芸術上の立場。十八世紀から十九世紀のヨーロッパで、啓蒙思想に対抗して起こった。

**穢れ** 死や出産などの際に生じるとされる不浄のこと。特定の人・物・場所などを穢れとして忌避する観念は、広範な社会で見られる。穢れを払うには禊ぎが必要となる。

**ゲノム** 「gene (遺伝子)」と集合を表す「ome」を組み合わせた造語。生物の持つ遺伝子(遺伝情報)の全体をさす。ヒトゲノムの全塩基配列が二〇〇三年に解析された。この解析により医学の飛躍的な発展が期待されている。

**言語** 混沌とした世界を、差異に基づき分節化したもの。世界をどのように認識しているかの表れ。分節のしかたは各言語によって異なるため、どの言語を用いるかによって世界観も限定される。

**現象** 感覚で捉えられるもの(形而下)。現象は個人の主観によっていると言える。フッサールの唱えた現象学は、学問の根拠をこうした個人の主観に置き、**精神や文化の本質**を実証しようとする哲学的方法をいう。

**言説(ディスコース)** 特定の文化的な関係を背景にして述べられる言語表現。「書かれたもの」「言われたこと」といった言語表現の総体。

**原理主義** 理念的な原理(物事の根本的な法則)を重視する姿勢。宗教でいうと、聖典などをことさらに重視し、世俗的な解釈を否定する姿勢をさす。

**権力** 他人を従わせる力、強制する力。日常にはさまざまな**権力**構造が潜んでおり、学校や病院なども**権力**装置だと解釈できる。

**関連** **監視** **権力**を持つ組織が個人を常に見張ること。中央に高い塔を置き、その周囲を取り巻くように監房を配置した刑務所の形式を「パノプティコン」というが、フーコーはこの原理が**権力**技術として**近代社会**全域に應用されていると指摘した。現代において、人々は物理的な方法だけではなく、**データや情報**によっても**監視**されるようになりつつある。

**公害** 人為的な原因から、地域住民や公共一般がこらむる被害や、自然環境の破壊。大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・悪臭・振動・地盤沈下などをさす。

公正  
↓フェア(公正)

**構造主義** 現象から構造(現象に潜在するしくみ)を抽出し、その**現象**を理解しようとする考え方。二十世紀の初めに言語学者のソシュールらが提唱し、この方法論が他の分野にも適用され、民族学のレヴィストロース、精神分析学のラカン、哲学のアルチュセールやフーコー、バルトなどが成果をあげた。一九六〇年代の主要思潮であり、西洋文明中心主義のものの見方を**相対化**させるきっかけとなった。

**構築主義** ある事柄を、社会的に作られたものと考え変更可能だと見なす立場。これに対して、ある事柄に対して、変更不可能のものだと見なす立場を**本質主義**という。たとえば「男女差」について、「社会的に構築されたもの」と考えるのは**構築主義**、「生得的で変更できないもの」と考えるのは**本質主義**にあたる。

**対** **本質主義** 個別の事物には変化しない本質が必ずあり、それによって内実を規定されていると考えること。

**公用語** ある集団・共同体において、公の場で用いることが公式に規定されている言語。

**合理** 理にかなっていること。論理的に説明できるようにすることを「**合理化**」という。**近代**は合理的であることが重要視された時代であった。

**功利主義** 社会における効用の最大化を目ざす考え方。効用を人々の幸福と考えれば、多くの個人の幸福を最大化する考え方とも言い換えられる。イギリスの哲学者ジェレミー・ベンサムはこれを「最大多数の最大幸福」と表現した。

**コード** 何かを運用する際のきまり。規則、慣例、符号。「法典」を意味する言葉に由来するとも言われ、「ドレスコード」などのように「規約」や「行動規範」といった意味でも用いられる。「コミュニケーション」においては、発信者と受信者のコードの共有が前提となっており、同じ言葉でもコードが異なると意味するものが異なる。転じて、コンピュータが実行すべきデータや命令を表現したのもコードと呼ばれる。

↓記号

**国民国家** ある民族によって構成される国家。言語や文化を共有し、国家を構成する人々を「国民」とするが、これは、国民国家の成立に伴って見いだされた制度であるとも言える。

**↓ナショナリズム**  
**互酬性** 贈与とそれへの返礼義務によって築かれる関係性。代表的な例として北米先住民が行っていたポトラッチがあげられる。

**個人主義** 社会の利益よりも個人(国家や社会などの**共同体**を構成する個々の人間)の意義を優先させる考え方。

**関連** **全体主義** 個人は全体を構成する部分であるとし、個人の活動は全体の成長のために行われなければならないとする考え方。国家・民族を優先し、個人の権利は無視される。第一次世界大戦後のドイツのナチズム、イタリアのファシズムなどがその典型。

**関連** **集団主義** 個人は**他者**との関係性において意味を持つ存在であるとし、自己の所属する集団をそれ以外の集団よりも重視する考え方。日本の経営の特質の一つとされる。

**コスモス(秩序)** 規則や秩序がある整然とした状態。

**対** **カオス(混沌・濁沌)** 「**コスモス(秩序)**」に对立する語で、物事が混じり合っており区別がつかない状態。無秩序な状態から何かが誕生するという捉え方をする場合、肯定的に捉えられる。

**コスモロジー** 世界を秩序あるものとして哲学的に考察すること。宇宙論。

**個性** 個人や個体に特有の性質や特徴のこと。

**言霊** 言葉が持つとされる霊力。古代の日本では、声に出した言葉が現実世界に何らかの影響を与える信じられ、良い言葉を発すると良いことが起こり、不吉な言葉を発すると凶事が起こるとされた。

**コミュニケーション** 意思や感情、情報などを伝達し合うこと。言語・文字・身振りなどを媒介とする。その際、発信者と受信者がコードを共有することが理想である。コードが共有されない

と、両者の間に意味のずれが生じるが、一般的にはコードは完全には一致しない場合が多いとされる。

**関連 メディア** ①コミュニケーションの際、媒介となるもの。②情報の記録・伝達・保管などに用いられる物や装置、媒体。

**関連 マスメディア** 不特定多数の人々に情報を伝えるメディア。新聞・テレビなどが代表的なもの。

**関連 メディア・リテラシー** 情報を理解し、活用する力。その情報がどんな意図で作られ、送り出されているかを自分で判断する能力。

**関連 ジャーナリズム マスメディア** を通じて行う報道・解説・批判等の活動。また、その機関。

↓記号

**コミュニタリアニズム(共同体主義)**

20世紀後半のアメリカを中心に発展してきた、**共同体の価値**を重んじる政治思想。**自由主義**に対抗する思想であるが、**自由主義**を完全に否定するものではない。

**関連 リベラリズム** 自己と他者双方の**自由**を尊重する社会的公正を指向する立場。政府による制限や介入をなくすことを求める**リベタリアニズム**、**ネオリベラリズム**とは異なり、政府などによる積極的な介入も必要であると主張する。

**関連 リベタリアニズム** 個人的な自由と経済的な自由の双方を重視する立場。経済的な自由を重視する**ネオリベラリズム**と似ているが、**リベタリアニズム**では個人的な自由をも重んじる。他者の身体や正当に所有された物質的、私的財産を侵害しない限り、全ての行動は**自由**であるとする。**リベラリズム**は、貧困者や弱者の救済として国などが富の再配分を行うことを肯定するが、**リベタリアニズム**はこれらを認めない。このような立場をとる人を「**リベタリアン**」という。

↓共同体

**コンセンサス** 意見の一致。合意。多様な利害関係を持つ人々の意見を一致させること。

**コンソーシアム** 共通の目的を持つ複数の組織が協力するために結成する共同体。

**コントラスト** 並置されているものの差異。視覚においては、色、明るさ、輝度などの差違のこと。

**コンテキスト** 前後関係。文脈。

↓カオス(混沌・濁沌)

**コンプライアンス** 企業が法令などを遵守すること。法令遵守。

**コンプレックス** 衝動・欲求・観念・記憶等の心理的構成要素が無意識に複雑に絡み合って形成された観念の複合体をいう。心理学用語としては劣等感以外の感情の複合も含むが、日本語では「コンプレックス」と言うと暗黙に「劣等コンプレックス」のことをさす傾向がある。

## さ

**差異** 違い。世界をどう分けていくかという問題(分節化)は、どのように差異を見いだすかという問題であるとも言える。

**再現性** 社会学では、主体が自らの行為に関する情報を、その行為を検討・評価し直すために用いることをさす。イギリスの社会学者キチンズが用いた概念。

**再帰性** 特定の現象や実験が、同じ条件のもとであれば同一の結果を与えるような性質を持つこと。

↓科学

**サステイナブル**  
↓持続可能(サステイナブル)

**さび** 「わび」同様、日本的な美意識の一つ。古びたものに感じる静かで落ち着いた趣。

↓わび

**サブカルチャー** 社会の正統的、伝統的な文化に対して、その社会に属する一部の集団に支持される娯楽や趣味文化。狭義には、特撮・アニメ・アイドルなどのオタク的な趣味をさす。

**サムネイル** ファイルの内容や中身を示したり、インテックスやプレビュー、見本として使われたりする小さなサイズの画像。名称は親指(thumb)の爪(nail)にへらひのサイズであることが由。

**死** 本来、死とは心臓が停止する「身体の死」をさしていた。しかし、脳の死こそが人間の死であるという**脳死**の考え方が生まれ、**臓器移植**が可能となった。

↓生命倫理

**思惟性** 根本的な問題を深く考察すること。

**恣意的** 思うとおりにするさま。

**シェア** 分担すること。共有すること。

**ジェンダー** 文化的、社会的に形成された男女の違い。生物学的な性差であるセックスに対する**概念**、男は青色、女は赤色というように、社会の中でこうあるべきという作られた**制度**をさす。**ジェンダー**によって、期待されたり、許容されたり、評価されたりする事柄に差があるという現実があり、両性間に差別や不平等が存在するとされる。

**関連** **フェミニズム** 性差別を廃止し、抑えられていた女性の権利を拡張しようとする思想。現在、**ジェンダー**などの視点から家父長制的な前提の問い直しが求められている。

**シオニズム** イスラエルの地に故郷を再建しようとするユダヤ人の運動。ユダヤ教やイスラエル文化の復興運動を指す場合もある。

**自我** 意識したり行為したりする主体としての自分自身。

**時間** 時。近代に入り**時間**（および空間）は人間にとって外在的で客観的なものだと考えられるようになった。

**次元** 元は、一般的な空間の広がりを表す語。直線を一次元、平面を二次元、空間を三次元と呼ぶことから、レベルや立場を表すようになった。転じて、マンガやアニメーション、ゲームなどを「次元」、それらを原作としたミュージカルや演劇などの舞台芸術を「二次元」と呼ぶことがある。

**関連** **位相** ①数学において、集合に含まれる要素どうしのつながりを示す概念。トポロジー。②周期的に繰り返す現象の中の、ある特定の局面。③社会的な属性や、コミュニケーション方法などの違いから、言葉に違いが生じる現象。④転じて、社会におけるレベル、立場、そこから見えるありさま。

**自己** 自分。己。

**対他者** 自分以外の存在。

**自己目的化** 目的達成のための手段や行動自体が、いつの間にか目的になってしまうこと。

**システム(体系)** 秩序を持った一つのまとまり。「系」「制度」「方式」「機構」「組織」と表現される場合がある。

**自然** この世界にもともと存在するもの。近代に入り、**物心三元論**によって、**自然**を人間の支配するべき対象として、人間と切り離して考えるようになった。

**関連** **機械論的自然観** 自然は精神を持たない単なる物質で、一定の因果関係によって動くとする考え方。ここから**近代科学**にも見られる、**自然**を操作し**支配**することができるという態度が生まれた。

**自然言語** 人間が日常的に用いる言語。**文化的背景**を持って自然に発展してきた言語。対義語は「人工言語」「形式言語」など。

**持続可能(サステイナブル)** 経済・政治・文化などが将来にわたって適切に維持され発展するために、**自然環境**と良好な関係を持って共生している状態。「サステイナビリティ」は持続可能性の意味。

**持続可能な開発目標(SDGs)**  
Sustainable Development Goals。二〇一五年に国連総会で採択された持続可能な開発のための十七の国際目標と、その下にある百六十九の達成基準と二百三十二の指標からなる。

**実在** 認識主体から独立して客観的に存在するもの。

**実存** 自己とは何かを問い続けながら存在する、人間の主体的なあり方。**実存**の内実を探究する思想を実存主義という。

**支配** ある個人もしくは集団が、個人・地域・国家などを**権力**下に置くこと。

**自分探し** 自分の現状に満足できず、どこかに「本当の自分」という存在があると考えて探し求めること。

↓ **アイデンティティ(自己同一性)**

**資本主義** 私有財産制度と経済活動の自由を特質とする社会制度。独占や寡占、所得格差などの弊害があるため、財政・金融政策による是正が必要とされるが、政府がどの程度介入すべきかについてはさまざまな議論がある。

**関連** **社会主義** 資本主義における生産手段の私有と私的管理、商品の**自由競争**という原則を批判して生まれた、生産手段を社会全体で共有し、経済を計画的にコントロールすることで**平等**な社会を実現しようとする社会体制。

↓ **リベタリアニズム**  
↓ **リベラリズム**

**シミュラクル** 原義は、現実を何かに置き換えた「模擬、模造品、虚像」の意味。フランスの哲学者のジャン・ボードリヤールらが「本質を記号化したコピー」と独特の定義をし、その意味で用いられることが多い。オリジナルとコピーの境界が曖昧になる現代社会における状況を背景とした概念。

**シミュレーション** あるシステムの挙動を、それとほぼ同じ法則に支配される他のシステムや計算によって模擬すること。模擬実験。気象などのコントロール不可能な現象の考察や、一回あたりには大きなコストがかかる実験の代替などに用いられる。

**市民** 近代社会では、市民革命を支え、**権力者**を倒した産業資本家などの中間層の人々をさす。現在でも、社会に主体的に参加する人々という意味で使われる。

**関連** **大衆** 社会の大多数を占める大勢の人々。「市民」という語が**自律的な存在**という意味で使われるのに対して、「大衆」という語は**メディア**などに影響されやすく、他者と同調しがちな人々という意味で使われることが多い。

**ジャーナリズム** マスメディアを通じて行う報道・解説・批判等の活動。また、その機関。

↓「リミテッドゲーム」

**社会** 生きるために関わり合う二人以上の人間が作るもの。

↓「共同体」(「コミュニティ」)

**社会関係資本** (「ソーシャルキャピタル」) 人々が持つ信頼関係や人間関係を、社会の効率性に資する資源として捉えたもの。

**借景**

日本庭園や中国庭園で、庭園外の景物をとりこんで構成の要素とすること。

**社会主義**

**資本主義** 資本主義における生産手段の私有と私的管理、商品の自由競争という原則を批判して生まれた、生産手段を社会全体で共有し、経済を計画的にコントロールすることで**平等な社会**を実現しようとする社会体制。

対 **資本主義**

私有財産制度と経済活動の自由を特質とする社会制度。独占や寡占、所得格差などの弊害があるため、財政・金融政策による是正が必要とされるが、政府がどの程度介入すべきかについてはさまざまな議論がある。

**捨象**

物事の表象から特徴を分けて取り出す**抽象**を行う際に、余分な性質や特徴を切り捨てること。

**自由**

他からの強制・拘束・支配などを受けず、自らの意思に従っている状態。**自由**の下で行った行為は、それに伴う責任と合わせて語られることが多い。

↓「リベラリズム」

**周縁** 中央から離れた縁。大きな力を持つ国家や**文化**(=中心)に対して、その周辺をさす。**近代**はヨーロッパ文明中心主義であり、ヨーロッパは**周縁**各地に対して**権力**を持った。周辺も中心に憧れを抱き、近代化を進めた。

↓「周辺化」

**集団主義** 個人は**他者**との関係性において意味を持つ存在であるとし、自己の所属する集団をそれ以外の集団よりも重視する考え方。日本の経営の特質の一つとされる。

対 **個人主義**

社会の利益よりも個人(国家や社会などの**共同体**を構成する個々の人間)の意義を優先させる考え方。

**周辺化**

中心から離れていくこと。話題の中心、対象から疎外・排除され、取り残されている状態をいう。

↓「周縁」

**主観** 主体が捉えた**客体**のありよう。ある個人のものの方。

対 **客観**

主観を超えた**普遍的な認識**。当事者としてではなく、第三者の立場から見ること。

**主体**

自ら物事を認識したり、行動したりするもの。

対 **客体**

主体の認識や行動の対象。「**客体化**」は、物事を**客観的**に見ること。

**受動的**

他からの考えや行動を受け入れること。**能動的** 自ら進んで考え行動すること。

**シュルレアリスム** (「超現実主義」)

不合理で非現実的な世界を描くことで人間の解放を目指した**芸術運動**。

↓「リアリズム」

**馴化** 同じ刺激を何度も繰り返すうちに、その刺激に対する反応が低下していく現象。心理学の概念。

**循環型社会**

有限な資源の効率的な活用やリサイクルなどによって、資源利用の**持続可能な循環**を維持していく**社会**のあり方。

**止揚**

↓「アウフヘーベン」(止揚)

**象徴** 抽象的な内容を具体的な事物によって表すこと。シンボル。

**情報**

事象の内容や知らせ。判断に役立つ資料や知識。アナログな現実の世界をデジタルな信号に換えて、コンピュータが高速・大量に処理することで現代**社会**は成り立っていると云える。

↓「デジタル化」

**情報通信技術** (「ICT」) Information and Communications Technology

略。情報通信技術。パソコン、スマートフォンなどの情報機器やそれを支えるシステム、それらを使ってサービスを提供する技術などを広くさす語。

**触媒**

化学反応において、そのもの自身は変化しないが、反応速度を変化させる物質。

**自律**

自分の意志で行動すること。自分で自分をコントロールすること。また、ロボットなどが人間の制御によらず、自身で周囲の環境を判断して行動すること。

対 **他律**

自らの意志ではなく、他からの命令、支配に従うこと。

**自立** ちとちと、他からの**支配**や助力を受けずに独り立ちすることをいった。しかし、人間は周囲の人々との関係性を築きながら生きているため、現在では他の力を借りながら互いに助け合って生きることも含めて**自立**と言われるようになってきている。

**ジレンマ**

相反する二つの事柄の板挟みになること。

**人為**

人間の力で何かを行うこと。**自然**に人間が手を加えること。

**進化論**

現存する多様な生物種は、もとは単一の原始生物であり、それが環境適応や自然淘汰を繰り返して発展的に変化したという考え方。ダーウィンによる生物学での知見であったが、**文化**的な事象にも用いられる。

**人工知能** (「AI」)

記憶・推論・判断・学習などの知的行動を人間の代わりにコンピュータに行わせる技術。一九九七年、チェス用に開発された**AI**「ディープ・ブルー」が当時の世界チャンピオンを破り、その後、家電製品・情報通信・金融工学・医療・軍事などの分野で実用化が進んでいる。二〇一〇年代以降、ディープラーニング(「深層学習」)の飛躍的な発達や、ビッグデータの集積などにより、人工知能ブームが起こった。**AI**が人間の知能を超えて**文明**の主役になる転換点(「シンギュラリティ」)が、今世紀半ばには起こるとする学者もいる。

関連 **生成人工知能** (「生成AI」)

画像、文章、音声、プログラムコード、構造化データなどを生成する**人工知能**のこと。大規模なデータを学習し、その特徴を模した絵や文章を生成する。ジェネレーティブAI。ジェネラティブAI。

**シンギュラリティ** 技術的特異点。科学技術が急速に発展することで人間の生活も決定的に変化する未来の時点。A Iが人間の知能を超えて文明の主役になる転換点。

↓人工知能(AI)

新自由主義

↓ネオリバリズム(新自由主義)

**心象** 心の中に描き出される像。イメージ。心象風景

**人新世** 「ひとしんせい」とも。人類が地球の地質や生態系に影響を与え始めたとされる、地質時代における現代を含まない区分。定義や期間について議論があり、地質学の正式な用語とはなっていない。

**身体** デカルトの物心二元論によって、長い間、**身体は精神**と切り離して捉えられ、単なる物質と見なされてきた。しかし、二十世紀以降、**身体と精神**は分離できないという考えから、**身体**の側から人間存在を捉え直すようになった。「身体論」が唱えられるようになった。

**ジレンマ** 相互に矛盾する概念を統合する行為。

↓弁証法

**進歩** 望ましい方向へ物事や文化、**文明**などが進んでいくこと。

**真理** 変わるのではない、正しい物事の道理。

**神話** 世界の成り立ちを語る物語。派生的に「長期にわたって正しいとされてきた事柄」の意味で、「安全神話」「不敗神話」などの形で使われる。

**スキーム** 計画、案、体系、枠組み。あらゆる目標の達成に向けた具体的な方法や枠組み。

**ステークホルダー** 利害関係者。

**ステルスマーケティング** 消費者に広告であると明記せずに隠して行う宣伝行為や、非営利の好評価を事業者が第三者を装って行うなどして消費者を欺く行為。略語である「ステマ」の形で使われることも多い。

**ステレオタイプ** 型にはまった画一的なイメージ。ステロタイプ。紋切型。

**スペキュティブ・デザイン** 課題について考えるきっかけを提示するデザイン。未来はこうもありえるのではないが、という臆測を提示し、問いを創造するデザインの方法論。

**スマート** 賢い、鋭い、活発、洒落などを意味する言葉。日本語では、体つきや物の形がすわりとしている、というような意味で使われることがあるが、英語には本来そのような意味はない。スマートフォン、スマートグリッド、スマートホームなど。

**正義** 倫理、法律、宗教などに基づく正しさに関する概念。アメリカの哲学者ロールズは、利益の分配に当たってもっとも妥当で適切な分配の仕方を選ぶ社会的取り決めが**社会正義**の諸原理になるとした。これに対してアメリカの哲学者マイケル・サンデルなど**コミュニタリアン**の立場から、ある**コミュニティ**のなかに共通する善き生き方と切り離された形で**正義**を考えることはできないという反論がなされた。また、アメリカの哲学者ノージックなど**リベタリアニズム**の立場からは、個人の能力の違いを制度によって矯正することは個人の権利を侵害するとして、**平等主義**的な再分配の原理に批判が加えられた。

脆弱性

もろくて弱いこと。傷つけられやすいこと。ヴァルネラビリティ。IT分野においては、コンピュータなどのハードウェア・ソフトウェアにおける、設計上のミスやプログラムの不具合が原因で発生するセキュリティ上の欠陥をいう。

↓被傷性

**精神** 心、意識、理念などをさす言葉。デカルトの物心二元論では、人間は**身体と精神**からなると考える。

生成人工知能(生成AI)

画像、文章、音声、プログラムコード、構造化データなどを生成する**人工知能**のこと。大規模なデータを学習し、その特徴を模した絵や文章を生成する。ジェネレーティブAI。ジェネレーティブAI。

↓人工知能(AI)

**生態系** 生物とそれを取り巻く環境を全体的に捉えたもの。**生態系**についての学問を「生態学(エコロジー)」という。デカルトは**物心二元論**によって、**自然と人間**を切り離して考える**近代的思考**をもたらしたが、生態学はこうした**自然と人間**の関係を見つめ直すものでもある。

**静的** スタティック。事象を変化しないものとして捉えること。または、ある一時点のみを切り取って捉えること。**動的** ダイナミック。事象を時間に沿って変化するものとして捉えること。

**性的少数者** 「性」のあり方が多数派と異なる人のこと。セクシュアルマイノリティ。LGBTはレズビアン(Lesbian)、ゲイ(Gay)、バイセクシュアル(Bisexual)、トランスジェンダー(Transgender)といった性的少数者の総称。性的自認が定まっていない人(Questioning)を加えたLGBTQという呼称もある。

**制度** 社会的なしくみ。「法律」のように成文化されたもの以外に、「道徳」「慣習」「言葉」「貨幣」なども**制度**と考えることができる。

**生命の質(QoL)** Quality of Life。生活の質。身体、心理、社会参加などの観点から包括的に評価された生活の質。医療や介護などの分野において、**生命の尊厳**と自分らしさを求める考え方が生まれた。

**生命倫理** 生と死に医療はどう関わるべきかという問題。 **脳死**、**臓器移植**、人工妊娠中絶、安楽死、尊厳死、クローンなどの問題がある。

**関連** **死** 本来、死とは心臓が停止する「身体の死」をさしていた。しかし、脳の死こそが人間の死であるという**脳死**の考え方が生まれ、**臓器移植**が可能となった。

**関連** **臓器移植** 臓器が正常にはたらかなくなった場合に、他の正常な臓器を移植することで機能を回復させる治療法。

**関連** **脳死** 脳のすべての機能が回復不能と認められた状態。

**セーフティネット** 予想される危険や損害に対する社会的な救済策のこと。社会保障の一種で、**リスク**を軽減し、社会のメンバーに安全や安心を提供する。サーカスの空中ブランコの下に張られた安全網が語源とされる。

**セグメント** 部分、断片。分断されたものの一部分。

**世間** 世の中。個人の力の及ばないずっと以前から存在するもの、という日本的な社会の捉え方。個人が前提となる西欧近代主義でいう「**社会**」とは異なる。

**世俗化** **社会**や文化が、宗教などの聖なる支配から**市民**に解放されること。

**絶対** 他に比べるべきものがないこと。  
**対** **相対** 他との比較によって成り立つこと。他との比較を通して、問い直したり、疑ったりすることを「**相対化**」という。

**世論** 世間一般の意見。多くの人が共有している意見。

**全体主義** 個人は全体を構成する部分であるとし、個人の活動は全体の成長のために行われなければならないとする考え方。国家・民族を優先し、個人の権利は無視される。第一次世界大戦後のドイツのナチズム、イタリアのファシズムなどがその典型。

↓ **個人主義**

**臓器移植** 臓器が正常にはたらかなくなった場合に、他の正常な臓器を移植することで機能を回復させる治療法。  
↓ **生命倫理**

**相対** 他との比較によって成り立つこと。他との比較を通して、問い直したり、疑ったりすることを「**相対化**」という。  
**対** **絶対** 他に比べるべきものがないこと。

**ソーシャルキャピタル**  
↓ **社会関係資本** (ソーシャルキャピタル)

**ソーシャルメディア** (ソーシャルネットワーク) **ワーキングサービス**・**SNS** ユーザーの間に社会的なネットワークを構築し、維持・促進するさまざまな機能を提供する会員制のオンラインサービス。典型的にはプロフィール・メッセージ・タイムライン・ブログ・アンケートなどの機能を有する。

**疎外** 人間が制度に支配され、本来あり方を失うこと。個性や人格が**社会**関係の中に埋没して主体性を失うことで、他人や他の事柄に対してだけでなく、自分自身に対しても疎遠な感じにとらわれてしまう状態を「自己疎外」という。

た

**ダイアログ** 対話。会話。組織内の相互理解を推進し、お互いの考えやアイデアを深めるためのコミュニケーションの方法を指す。↓ **モノローグ**

↓ **個人主義**

↓ **システム** (体系)

**大衆** 社会の大多数を占める大勢の人々。「**市民**」という語が自律的な存在という意味で使われるのに対して、「**大衆**」という語は**メディア**などに影響されやすく、他者と同調しがちな人々という意味で使われることが多い。

↓ **市民**

**ダイバーシティ**  
↓ **多様性**

**他我** 他者が持つ自分という意識。

**関連** **自我** 意識したり行為したりする主体としての自分自身。  
↓ **自我**

**多義的** 複数の意味を持っていること。  
↓ **一義的**

**多元論** 物事が一つの原理ではなく、多様な原理によって独立して成立していると考ええること。  
↓ **一元論**

**他者** 自分以外の存在。

**対** **自己** 自分。己。  
**多神教** 複数の神々を同時に信仰する宗教。神道やヒンドゥー教など。  
↓ **神**

**タスク** ある目的を達成するために必要な作業や業務。

**脱構築** **デイコンストラクション**

ある対象を解体し、そこにある有用な要素を用いて、別の何かを再構築すること。あるいは、二項対立に隠された矛盾を暴き出すための手法。元はフランスの哲学者ジャック・デリダが創り出した概念。脱構築の考え方に従えば、「**脱構築**」という概念も常に脱構築され続けなくてはならない。

**タブー** (禁忌) もともとは、個人や共同体における行動のありようを規制する広義の文化的規範(宗教的に禁止されていることなど)。禁忌。転じて**社会**において言及することがよくないと思われている事柄。

**ダブルバインド** 矛盾する二つの命令やメッセージを同時に受けて、板挟みになること。

**多様性** ある集団の中に異なる特性を持つものが豊かに存在すること。ダイバーシティ。自然科学には種多様性、遺伝的多様性などの、社会科学には文化多様性、地域多様性などの概念がある。一種のものがさまざまに分かれていくことを「多様化」という。

**他律** 自らの意志ではなく、他からの命令・支配に従うこと。

**対** **自律** 自らの意志で行動すること。自分で自分をコントロールすること。また、ロボットなどが人間の制御によらず、自身で周囲の環境を判断して行動すること。

**知** 物事を判断したり認識したりすること。

**関連** **暗黙知** 「言語化されていない知」のこと。経験的に使っている知識だが簡単に言葉で説明できない知識。対義語は形式知。  
**関連** **インテリジェンス** ① 知性。知能。理解力。② 情報。諜報。

秩序

↓「コスモス」(秩序)

**抽象** 物事の性質などの共通性を捉えること。

**対** **具体** それぞれに実体のある明確なあり方。

**超越** 普通の程度をはるかに越えること。ある物が別次元にあることを表す概念。

超現実主義

↓「シュルレアリスム」(超現実主義)

**超克** 困難を乗り越え、克服すること。

**通時的** 言語学者ソシュールの用語。関連する複数の現象や体系を、時間の流れに沿って記述しようとする姿勢。

**対** **共時的** スイスの言語学者ソシュールの用語。ある現象を一定時期における静止現象と捉え、その構造を体系的に記述しようとする姿勢。

**通念** 一般に共通して認められている考え。

非の文化

アメリカの文化人類学者ルース・ベネダイクトが『菊と刀』で規定した、西欧の文化の特徴。西欧人は行為に対する規範的規制の源が内なる自己(良心)にあり、罪を犯さないことを第一にして、人々の行動が規定されているとした。

**対** **恥の文化** 他者からの批判や嘲笑を避けることを行動規範とする日本的な文化。西欧の非の文化に対して、日本の文化の特徴を規定したもので、日本人は行為に対する規範的規制の源が自己の外側(世間)にあり、恥をかかないことを第一にして、人々の行動が規定されているとする。

ディープラーニング

深層学習。人工知能に、対象の全体像や細部など抽象度の異なるそれぞれの概念を、階層構造として関連させて学習させる手法。

ディスクール

↓言説(ディスクール)

デイスコンストラクティオン

↓脱構築(デコンストラクティオン)

**テーゼ** 推定。命題。事実を肯定したり、その内容を明記したりすること。

↓弁証法

テキスト

広義には、何らかの意味を読み解く対象全般をさす。狭義には、文章などの、つながりを持つ文の集合のこと。「ファスト論」とは、読者が作品をどう読むかという視点を取り入れた読解の考え方。文章は一旦書かれると、作者自身との連関を断られた自律的なものとなり、多様な読まれ方を許す。こうした考え方を、フランスの哲学者ロラン・バルトは「作者の死」と呼んだ。また、デリダは「言いたいこと」は純粹にそれだけとしてあるのではなく、言葉と不可分に結びついて成り立つと考えた。こうした「テキスト論」は、文章というものに絶対の真理(著者が言いたかったこと)を求める姿勢への批判であり、「形而上学批判」の一つと見ることが出来る。

テクノロジー

科学技術。工学的な技術を利用する方法。

デジタル化

連続する数値を離散的な数値に変換すること。情報をコンピュータで処理できるように変換すること。

関連

**情報** 事象の内容や知らせ。判断に役立つ資料や知識。アナログな現実の世界をデジタルな信号に換えて、コンピュータが高速・大量に処理することで現代社会は成り立っていると言える。

デフォルメ

絵画や彫刻などで、対象を変形・歪曲して表現すること。日本では、対象の特徴を誇張、強調するという意味で用いることが多い。

デモクラシー

↓民主主義(デモクラシー)

**テロリズム** 政治的目的を達成するために暴力の行使を認める主義。二十世紀には、政治的要求や体制の打倒を目的とした国家に対する暴力の意味で使われることが多くなった。直接の攻撃対象だけでなく民衆の恐怖心をあおる行為である点で、従来の戦争やゲリラ戦と区別される。軍事的な勝利が見込めない場合にも政治的な目的のために実行される。ハイジャックや爆破などの手段がとられ、心理的な効果をねらって多くの市民が行き交う公共の場や、経済的・政治的な要地が攻撃の対象とされることが多い。

当為

まさになすべきこと。まさにあるべきこと。ドイツ語Sollen(ソルレ)の訳語。

淘汰

よいものを取り、悪いものを捨てること。自然淘汰は、環境に適したものが生き残るといって「進化論」の基本概念。

動的

ダイナミック。事象を時間に沿って変化させるものとして捉えること。

対

**静的** スタティック。事象を変化しないものとして捉えること。または、ある一時点のみを切り取って捉えること。

特殊

普通と異なっていること。**対** **普遍** すべてにあてはまること。

ドグマ

宗教における教義。転じて「独断・偏見的な説や意見」の意。教条主義。

都市

政治・経済・文化・交通などの地域における中心で、人口が集中している領域。住人は主に第一次・第三次産業に従事している。第三次産業中心で、人口密度の低い村落に位置される。

トップダウン

上層部が決めた内容を下層部が実行する意思決定方法のこと。上意下達。**対** **ボトムアップ** 下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式。

トボス

ギリシャ語で「場所」をさす語。何かの特別な意味を付与した「場所」について論じる際に使われる。

トリアージ

災害などで多くの傷病者が発生している状況で、傷病の緊急度や重症度に応じて治療優先度を定めること。

トレードオフ

何かを得ると、別の何かを失うという状況のこと。たとえばものを買うということは、他のものを購入する機会を失うという意味でトレードオフであると言える。

# な

**内部的** 内部からの欲求に基づき、おのずとそうなるさま。

**対 外発的** 他からの刺激や影響によってそうなるさま。

**内包** ある概念が適用される事物が持つ共通の性質のこと。

**対 外延** ある概念が適用される具体的な事物の範囲のこと。

**内面化** 社会における価値や規範などを、自分のものとして受け入れること。

**ナショナリズム** 国民国家に基づいて、国家や民族を統一しようとする思想。

民族主義、国家主義。人が国家に帰属していると感じる感情。また、帰属する対象として国家を最優先させる思想や運動。国家は抽象的な概念であり、その構成メンバーなどを直接的にすべて把握することは不可能である。そのような抽象的なものに**帰属意識**を持つ心性は近代以降のものであり、家族や地域**社会**などの集団に**帰属意識**を持っていた近代から変化した点である。国家に**帰属意識**を持たせようとして学校や軍隊は大きな役割を果たした。また、**ナショナリズム**は、独立や民族解放運動など、多くの**民族**が政治や文化の**主体**となる契機ともなった。

↓ **グローバル化** (グローバルイゼーション)

**ナッジ** 人々の行動や選択を、強制によらず望ましい方向へと誘導すること。

**ニーズ** 必要、要求、需要。

**二元論** 物事を相対立する二つの原理によって説明しようとする考え方。テカルトの**物心二元論**が代表的。

↓ **一元論**

**ニヒリズム** (虚無主義) 既存のあらゆる権威や社会秩序を否定する哲学的立場。

**ニユアンス** 表現や感情の微妙な意味合い。

**二律背反** 二つの相反する命題が、同等の合理性や妥当性を持っていること。アンチノミー。

**人間 物心一元論**により、**人間は精神**を持つ唯一の存在として**自然を支配**するもの(主体)となった。「物質的な存在である**自然**は**人間の支配の対象(客体)**である」とする考え方を「**人間中心主義**」という。

**認識** 物事を意識し、その本質や意義を理解すること。

**認知** 対象を知覚し、それが何であるかを**理論的に判断**すること。

**認知心理学** 人間が外界の情報を認知するまでの心の過程を研究する学問。心がどのように情報を処理するかという**脳の精神的な**はたらきを研究する分野。

**ネオリバリズム** (新自由主義) 個人の**自由**や市場原理を重視し、政府による個人や市場への介入を最低限にすべきたと主張する経済学上の思想。

↓ **リベラリズム**  
↓ **リタリアニズム**

**ネガティブ** 物事に対して**消極的な様子**。

**対 ポジティブ** 物事に対して**積極的な様子**。

**脳死** 脳のすべての機能が回復不能と認められた状態。

↓ **生命倫理**

# は

**能動的** 自ら進んで考え行動すること。

**対 受動的** 他からの考えや行動を受け入れること。

**ノーマライゼーション** 高齢者や障害者などを排除するのではなく、**健常者と同等に当たり前に生活**できるような**社会**こそが、**正常(ノーマル)**な社会であるという考え方。

**パースペクティブ** 遠近法。遠いものを小さく、近いものを大きく描く技法。または、物事を見る視点や立場。

**バイアス** 偏見や先入観、偏り。

**媒体**

↓ **メディア**

**バジェット** 予算や経費、運営費。

**恥の文化** 他者からの批判や嘲笑を避けることを行動規範とする**日本的な文化**。西欧の**罪の文化**に対して、日本の文化の特徴を規定した**もの**。日本人は行為に対する規範的規制の源が自己の外側(世間)にあり、恥をかかないことを第一にして、人々の行動が規定されているとする。

**対 罪の文化** アメリカの**文化人類学者**ルース・ベネディクトが『菊と刀』で規定した、西欧の文化の特徴。西欧人は行為に対する規範的規制の源が内なる自己(良心)にあり、罪を犯さないことを第一にして、人々の行動が規定されているとした。

**パトス** 情念。激情的、情熱的な精神。ギリシア語で「受動的状態」を意味する語。

↓ **ロケ**

**ハラスメント** 肉体的・精神的な苦痛を与え、相手を不快にさせたり不利益を与えたりする行為。人間としての尊厳を侵害する行為。地位などの優位性をとくに精神的・身体的苦痛を与える**パワーハラスメント**(パワハラ)、性的言動による**セクシュアルハラスメント**(セクハラ)、**モラル**に反する精神的な嫌がらせをさす**モラルハラスメント**(モラハラ)などがある。

**パラダイム** ある時代に支配的なものの見方。知の枠組み。アメリカの哲学者トマス・クーンが『科学革命の構造』でこの語を用いてから学術的概念として普及した。自然科学の歴史は連続的な進歩ではなく、一定期間ある**パラダイム**に基づいて科学が発展し、その科学が行きつまり**パラダイムシフト**が起こること、断続的に進んだとする。

**パラダイムシフト** **パラダイム**の変換。天動説から地動説への移行、ニュートン力学から量子力学への移行など。

↓ **パラダイム**

↓ **逆説** (パラドックス)

**ハレ** 儀礼や祭、年中行事などの非日常的なこと。

☞ **対ケ** 日常的なこと。普段の生活。

**反証可能性** 実験や観察によって、批判あるいは否定することができること。イギリスの哲学者ポパーは、このような反証が可能なものが科学理論であるとし、**反証可能性を科学**と非科学とを分類する基準とした。

↓ **科学**

**ヒエラルキー** ピラミッド型に序列化された階層構造。似た意味を持つ語に、**インド社会**で**歴史的**に形成された流動性のない身分制度に由来する「カースト」がある。近年、学校空間における生徒間の身分制度的な階層を「スクールカースト」という。

**被爆性** 傷つきやすさ。ヴァルネラビリティ。現在**リスク社会論**、**正義論**、**ケアの倫理**、**フェミニズム**など多くの分野で扱われている概念。人間を否応なく苦難に晒された存在とする見方。

↓ **脆弱性**

**ビッグデータ** 一般的ソフトウェアで扱うことが困難なほど膨大で複雑なデータ。経済・医療・防犯・交通などさまざまな分野で活用が進められている。

**比喩** たとえ。「雪のように白い」など、たとえであることを明示する形式を「直喩(明喩)」といい、明示しない形式を「隠喩(暗喩・メタファー)」という。

↓ **隠喩** (メタファー)

**ヒューマニズム** ①ルネサンス期の「人文主義」。古典教養の中に人間の理想像を求めるもの。②近代に入って、神中心の世界観から人間中心の世界観に移行した「人間中心主義」。③人道主義・博愛主義。英語の原義にはない用法。

**標準語** 公用文や教育、放送などで用いる規範的な言語。明治政府が東京の山の手地区で使われていた言語を基に作った。

↓ **共通語**

**表象** イメージ。心に浮かぶ対象の像。象徴・心象。記号・象徴を用いて経験を再現させる心的機能をさす場合もある。

**平等** 偏りや差別が無く、あらゆる人が皆等しいこと。一口に**平等**と言っても、何を等しくするか、どのように等しくするかによって、さまざまな種類の**平等**がありうる。代表的な区別の一つとして、財産などの最終的な分配結果を均等に「結果の**平等**」と、財産などを得る機会を全員に等しく与える「**機会の平等**」がある。

↓ **フェア** (公正)

**風土** 一般的に、その土地の気候・気象・地形・地質・景観などの総称。

↓ **環境**

**フェア** (公正) 人やものの扱いに偏りがないこと。

↓ **平等**

**フェイクニュース** マスメディアやSNSなどの媒体で報道される、事実と異なる情報。またはそのような報道そのもの。

**フェティシズム** 原義は呪物崇拜であるが、現代では特定のものに対する極度な愛着を表す言葉として用いられることが多い。「フェチ」と略することがある。

**フェミニズム** 性差別を廃止し、抑えられていた女性の権利を拡張しようとする思想。現在、**ジェンダー**などの視点から家父長制的な前提の問い直しが求められている。

↓ **ジェンダー**

**フォードイズム** 二十世紀初頭、HIIフォードが、大衆車の大量生産・販売を行うにあたって確立した経営理念、生産システムのこと。製品の単純化、部品の標準化をはかり、ベルトコンベアで生産効率をコントロールした。生産高に比例して賃金も上昇したため労働者の士気も上昇した。

**不可逆性** 元に戻れないこと。「不可」はできない、という意味。

**不確実性** その事象が確実に起こるかどうかが判断しないことをさす概念。「**リスク**」と同義に用いられる場合があるが、厳密には、「**リスク**」は発生する確率がある程度わかっている場合、「**不確実性**」は発生する確率がわからない場合という違いがある。

↓ **リスク**

**複雑系** 数多くの要素で構成され、それぞれが複雑に絡み合った系またはシステム。脳・生命現象・生態系・気象現象・人間社会などがあげられる。個々の要素の振る舞いが、系全体に大きな影響を及ぼす一方で、その中でも一定の秩序が形成されるといった特性を持つ。

↓ **カオス** (混沌・濁沌)

**物質** 物。物心二元論では、理性を持たず、空間に位置を占めるだけの存在。

**物心二元論** 精神と物質を別個の存在と捉え、世界は精神と物質という二つの実体から成り立っているとするアカルトの考え方。心身二元論。

**普通** すべてにあてはまること。

☞ **対特殊** 普通と異なっていること。

**プライオリティ** 物事の優先度・優先順位。

**プラットフォーム** 官公庁の施策における「環境」「基盤」や、ソフトウェアやシステムにおける「動作環境」をさす。元は「周辺よりも高い水平で平らな場所」を広く表す語。

**プロパガンダ** 個人や集団を、特定の思想、世論、行動へ意図的に誘導する行為。政治宣伝。宣伝や広告は総じて**プロパガンダ**であると言える。

**プロファイリング** (AIプロファイリング) **人工知能** (AI) を用いて、インターネットの閲覧履歴や購買履歴から消費者の趣味・嗜好を推測して広告や配信を行うこと。

**文化** 学問・芸術・宗教・道徳など、人間の精神的活動によって生み出され、人間生活を高めてゆくうえの新しい価値を生み出してゆくもの。生の営み。「文明」と同義に用いられる場合があるが、「文化」は精神的なものに対して使い、「文明」は物質的に発達した社会の状態をいうという違いがある。

**弁証法** 対立する二つの事項を統一、統合して、高い次元の結論に至る思考方法。指定〈テーゼ〉↓反指定〈アンチテーゼ〉↓総合〈シンテーゼ〉の三段階で説明するヘーゲルの弁証法をさすのが一般的。

**文化相対主義** 文化には優劣はなく対等であるとして、文化の多様性を認めて異文化を尊重する姿勢。

**関連 アンチテーゼ** ある命題に対しての否定的主張。反指定。  
**関連 シンテーゼ** 相互に矛盾する概念を統合すること。

**分析** ある物事をいくつかの要素に分けること。それらを成立させている成分や性質、構造などを明らかにすること。

**関連 アウフヘーベン〈止揚〉** 矛盾や対立をより高い次元で一つの結論に統一すること。弁証法により望ましい結論に至ること。

**分節** 混沌とした世界を区切って秩序あるものとして認識すること。その区切り。

**方言** ある地域で使われている言語。  
**↓共通語**

**文明** 人間の知恵が進んで、物心両面で生活が豊かになった状態。精神文化と対比して、生活や秩序を支える物質文化をさす語。

**封建制度** 君主が自身に忠誠を誓って主従関係を結ぶ領主や家臣などに土地を領有させ、その土地に住む人民を統治させる**社会制度**。あるいは領主が農民に対して絶対的な支配関係を敷いている制度など。さまざまな国・時代の制度が「封建制度」と呼ばれるが、その内容は必ずしも一様ではなく、見方によっても「封建制度」の範囲は異なってくる。日本史においては鎌倉時代から江戸時代までの武家**支配**時代を封建時代といふことが多い。「封建的」はこうした社会における典型的な価値観を表す語で、専制的、因習的なさま、上下関係を重んじて自由などを軽視するさまをさすという。

**ハイトクライム** 人種、民族、宗教など特定の属性を持つ個人や集団に対する、偏見や憎悪によって引き起こされる嫌がらせ、脅迫、暴行等の犯罪行為。

**封建制度** 君主が自身に忠誠を誓って主従関係を結ぶ領主や家臣などに土地を領有させ、その土地に住む人民を統治させる**社会制度**。あるいは領主が農民に対して絶対的な支配関係を敷いている制度など。さまざまな国・時代の制度が「封建制度」と呼ばれるが、その内容は必ずしも一様ではなく、見方によっても「封建制度」の範囲は異なってくる。日本史においては鎌倉時代から江戸時代までの武家**支配**時代を封建時代といふことが多い。「封建的」はこうした社会における典型的な価値観を表す語で、専制的、因習的なさま、上下関係を重んじて自由などを軽視するさまをさすという。

**ベネフィット** 物事から得られる利益。金銭的な意味だけでなく恩恵、便益など、心理的・機能的な利益も含む。

**ポジティブ** 物事に対して積極的な様子。  
**対 ネガティブ** 物事に対して消極的な様子。

**ベネフィット** 物事から得られる利益。金銭的な意味だけでなく恩恵、便益など、心理的・機能的な利益も含む。

**ポジティブ** 物事に対して積極的な様子。  
**対 ネガティブ** 物事に対して消極的な様子。

**ポストコロニアル리즘** 植民地支配の後も続く影響、差別的な状況を明らかにしようとする立場のこと。ポストコロニアルは「植民地以後」という意味。ポストコロニアル理論とも言う。旧植民地は独立後も旧宗主国の影響下で、種々の問題を抱えてきた。植民地時代の対立構造による内戦、植民地以前の生活の復興を自ずす人々と近代的な生活を自ずす人々との対立、旧宗主国の経済的支配の継続や、経済的支援の停止による貧困などである。こうした状況に対して、人類学、歴史学、政治学、哲学、社会学などさまざまな分野から批判的な分析が行われている。

**ポトルネック** プロセスやシステム全体の効率を制約する要因や部分。

**オリエンタリズム**

**ボヒウリズム** 大衆の利益・権利・願望を代弁し、大衆の支持を得ようとする政治姿勢。庶民的感情や常識によってエリートへの腐敗や特権を是正する方向に向かう可能性がある一方、大衆の欲求不満や不安をおもって支持を取りつけると、**民主政治**が衆愚政治化し、庶民のエネルギーが集団的熱狂に向かう可能性がある。

**ポストモダン** 「ポスト」は次、後という意味。もとは、機能主義と合理主義に基づく近代建築（モダニズム）を脱しようとする新たな建築方式をさす。そこから派生して、近代的な**社会・制度・思想**等を批判し、消費社会や情報社会と呼ばれる現代に対応した知のあり方を模索する思想的・文化的な傾向をさすようになった。リオターールは、近代には**社会や自由は発展・拡大**していくといった「大きな物語」が信じられていたが、現代では情報化が進み、価値観が多様化したため、一方的な右肩上がりの「大きな物語」は終焉したとした。また、ドゥルーズ、デリダ、フーコーなどの活動した「ポスト構造主義」のことを「ポストモダン」ということもある。

**ボリテカルコレクトネス** political correctness. **社会制度**やあらゆる表現を差別・偏見のないものに整え、人種や性別、年齢、障害の有無などを理由とした不当な扱いからマイノリティ・社会的弱者を守るための考え方や運動。または、特定のグループに対して差別的な意味や誤解を含まぬよう、政治的・社会的に公正で中立的な表現をすること。略してボリコレとも。

**近代(モダン)**  
**↓構造主義**

**本質主義** 個別の事物には変化しない本質が必ずあり、それによって内実を規定されていると考えること。  
**対 構築主義** ある事柄を、社会的に作られたものと考え変更可能だと見なす立場。これに対して、ある事柄に対して、変更不可能のものだと見なす立場を**本質主義**という。たとえば「男女差」について、「社会的に構築されたもの」と考えるのは**構築主義**、「生得的で変更できないもの」と考えるのは**本質主義**にあたる。

**ボトムアップ** 下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式。  
**対 トップダウン** 上層部が決めた内容を下層部が実行する意思決定方法のこと。上意下達。

**ボトムアップ** 下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式。  
**対 トップダウン** 上層部が決めた内容を下層部が実行する意思決定方法のこと。上意下達。

**ボトムアップ** 下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式。  
**対 トップダウン** 上層部が決めた内容を下層部が実行する意思決定方法のこと。上意下達。

**ボトムアップ** 下からの意見を吸い上げて全体をまとめていく管理方式。  
**対 トップダウン** 上層部が決めた内容を下層部が実行する意思決定方法のこと。上意下達。

# ま

**マイスター** 職人・名人・主人・巨匠を指すドイツ語。

**マイノリティー** 少数派。人種や宗教などの面で**社会**の少数派に属し、弱い立場に存在。

**対** **マジョリティー** 多数派。声高に自分の政治的意見を唱えない**一般大衆**を「サイレントマジョリティー」(物言わぬ大衆)という。

↓性的少数者

**マクロ** **〈巨視的〉** ①大きい。長い。②見方が大きくて全体的であること。マクロスコピック **〈巨視的〉** の略。

**対** **ミクロ** **〈微視的〉** ①ごく小さいこと。微小。②全体ではなく、狭い範囲で細かく見ること。ミクロスコピック **〈微視的〉** の略。

**マジョリティー** 多数派。声高に自分の政治的意見を唱えない**一般大衆**を「サイレントマジョリティー」(物言わぬ大衆)という。

**対** **マイノリティー** 少数派。人種や宗教などの面で**社会**の少数派に属し、弱い立場に存在。

**マスト** 欠かさない、絶対に必要などの意味で用いられる表現。英語の「must」に由来。

**マスメディア** 不特定多数の人々に情報を伝える**メディア**。新聞・テレビなどが代表的なもの。

**マルチスปีシズ** **人間中心**の視点ではなく、**人間**を含むあらゆる存在が、絡まり合って世界を作り上げていると考える方。

**見えざる手** 市場において、各個人の利己的な行動が結果的には**社会**全体の利益につながることをたえ。

**ミクロ** **〈微視的〉** ①ごく小さいこと。

微小。②全体ではなく、狭い範囲で細かく見ること。ミクロスコピック **〈微視的〉** の略。

**対** **マクロ** **〈巨視的〉** ①大きい。長い。②見方が大きくて全体的であること。マクロスコピック **〈巨視的〉** の略。

**民主主義** **〈デモクラシー〉**

人民が権力を握り、それを自ら行使する政治形態。**デモクラシー**という言葉の起源は古代ギリシアの時代に遡るが、**民主主義**が現代的な政治体制として確立するのは十七、十八世紀の市民革命以降のことである。君主制や貴族制、**全体主義**など対比される。非民主主義的な政体を「**権威主義**(**権威主義政体**)」と総称することもある。

**民族** 言語などの文化を共有する集団。

↓**ナショナリズム**

**無意識** ①理由などをはっきり意識することなく行動するさま。②**自我**では把握できないが日常の行動や精神に影響を与えている心の深層のこと。オーストリアの精神医ジークムント・フロイトが提唱し、**シュルレアリスム**などに影響を与えた。

**無機的** 無機物のように生命の感じられない温かみのない様子。

**対** **有機的** **有機体**、あるいは**生命体**のように各部分が密接に関わってまとまっている様子。

**無常** 仏教用語。この世にあるものは常に少しずつ変化し続けており、そのままではいられないという思想。

**命題** ある判断を言葉で表したものの、真か偽かが明確に区別できる言明。

**メカニズム** 特定の現象や過程がどのように機能するかを示す一連の仕組みやはたらき。装置、機構。

**メタ** 「あとに」という意味の古代ギリシア語。転じて「超越した」、「高次の」という意味の接頭辞。あるものを外側に立って見る事を意味する。たとえば、あるデータがどのような性質を持つかを示すデータを「メタデータ」、自身の認知がどのようなかを知覚することを「メタ認知」という。

**メタファー**

↓**隠喩** **〈メタファー〉**

**メディア** ①「コミュニケーションの際、媒介となるもの。②情報の記録・伝達・保管などに用いられる物や装置。**媒体**。

↓**「ミレニターメン」**

**メディア・リテラシー** 情報を理解し、活用する力。その情報がどんな意図で作られ、送り出されているかを自分で判断する能力。

↓**「ミレニターメン」**

**メンズリブ** 男性が自身の性規範を批判的にとらえ、従来の男性観を問い直し、見直そうとする思想や運動。

↓**ウーマンリブ**

↓**フェミニズム**

**モード** 形式。様式。方法。スタイル。流行。

**モダン**

↓**近代** **〈モダン〉**

**モチーフ** 芸術作品で、表現の動機・きっかけとなる思想や題材。

**モノのインターネット** **〈モノトインターネット〉**

Internet of Things。さまざまなモノをインターネットに接続し、相互に情報交換させたり、制御したりする仕組みをいう。外出先から遠隔操作できる家電製品や車の自動運転、リアルタイムで健康状態をモニタリングする医療機器などに活用される技術。

**モノローク** 登場人物が相手なしにひとりで言うセリフ。独白。

↓**ダイアローグ**

**模倣** まねること。創造の対義語として否定的に用いられることもあるが、人間が言語や生き方を模倣によって習得していることなど、肯定的な側面もあることに注意が必要である。

**モラトリアム** 原義は一時停止や猶予のこと。社会心理学では、学生などが社会に出て一人前の人間となるのを猶予されている状態をさす。日本語では「義務・責任を先延ばししている状態」をさして否定的に用いられる場合もある。

**モラル**

↓**倫理** **〈モラル〉**

や

**唯心論** 物質の実在を認めず、万物の本質は心やその働きにあるとする考え方。唯物論と対立する。

**対** **唯物論** 万物の本質は物にあり、精神や心なども物質であるとする考え方。

**唯物論** 万物の本質は物にあり、精神や心なども物質であるとする考え方。

**対** **唯心論** 物質の実在を認めず、万物の本質は心やその働きにあるとする考え方。唯物論と対立する。

**有機的** 有機体、あるいは生命体のように各部分が密接に関わってまとまっている様子。

**対** **無機的** 無機物のように生命の感じられない温かみのない様子。

**幽玄** 物事の趣が深くはかりしれないこと。仏教や老荘思想など、中国思想の分野で用いられる漢語であったが、日本では中世ごろから、和歌を批評する用語として用いられるようになった。

ら

**リアリズム** 革命等の手段による社会構造の変更や価値体系の根本的変更を主眼とする政治原理。急進主義。

**リアリズム** ①現実の事態を重視し、理想的な考え方を排斥する立場。現実主義。②現実を客観的に捉えようとする芸術的な立場。写実主義。

**関連** シュルレアリスム 超現実主義

**義** 不合理で非現実的な世界を描くことで人間の解放を目ざした芸術運動。

↓ **ロマン主義**

**リスク** 悪い事象が起こる可能性。リスクの大小は「悪い事象」の重大性と、それが起こる可能性の兼ね合いから決まる。

**リスク社会** 富の生産と分配ではなく、リスクの生産と分配が大きな問題となった社会をさす概念。ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックによって提唱された。現代ではリスクはグローバルに作用し、被害も広範囲に及ぶ場合がある。また、一般人の感覚や知識ではリスクを理解できない可能性が高まり、対処が難しくなっている。

**理性** 合理的に判断し、行動する能力。知。個人は理性によって統御されるべきとするのが近代の考え方。

**対** **感性** 外界の刺激を五感で受け止める能力。

**リソース** 資源。物質的なものに限らず、資源となりうる要素を抽象的に表す用語として使われる。人、施設設備、資金、ネットワーク、データの記録領域など。

**リテラシー** 読解し記述する力。転じて「適切に理解し、記述、表現すること」と。活用能力。」といった意味で使われる。

↓ **メディア・リテラシー**

**リノベーション** 既存の建物に大規模な改修を行い、用途などを変更して付加価値を与えること。広く、刷新、革新などの意味で用いられることもある。

↓ **リバタリアニズム**

**リバタリアニズム** 個人的な自由と経済的な自由の双方を重視する立場。経済的な自由を重視するネオリベラリズムと似ているが、リバタリアニズムでは個人的な自由をも重んじる。他者の身体や正当に所有された物質的、私的財産を侵害しない限り、全ての行動は自由であるとする。リバリズムは、貧困者や弱者の救済として国などが富の再配分を行うことを肯定するが、リバタリアニズムはこれらを認めない。このような立場をとる人を「リバタリアン」という。

↓ **リバリズム**

**リバリズム** 自己と他者双方の自由を尊重する社会的公正を指向する立場。政府による制限や介入をなくすことを求めるリバタリアニズム、ネオリベラリズムとは異なり、政府などによる積極的な介入も必要であると主張する。**関連** **ネオリベラリズム** ①新自由主義 個人の自由や市場原理を重視し、政府による個人や市場への介入を最低限にすべきだと主張する経済学上の思想。

↓ **リバタリアニズム**

**両義的** 相反する二つの意味を同時に持ち、どちらにも取ることが可能なこと。

↓ **一義的**

**倫理(モラル)** 善悪を判断するための規範。人として守るべき道。

**ルネサンス** ギリシア、ローマの文化を復興しようとする文化運動。元は「再生」「復活」などを意味するフランス語。十四世紀にイタリアで始まり、やがて西欧各国に広まった。また、これらの時代(十四世紀～十六世紀)をさすこともある。人間らしさや個性を尊重し、人々を宗教的束縛から解放させた運動とも捉えられる。

↓ **冷戦**

**冷戦** 第二次世界大戦後の世界を二分したアメリカ合衆国を盟主とする資本主義・自由主義陣営(西側諸国)と、ソビエト連邦を盟主とする共産主義・社会主義陣営(東側諸国)との対立構造をいう。直接的な武力対決ではなかったことから「冷たい戦争」と呼ばれた。米ソ冷戦。東西冷戦。1969年12月に、地中海のマルタ島で、ソ連大統領ニハイル・ゴルバチョフと米国大統領ジミー・ブッシュが会談し、冷戦の終結を宣言した。ここから転じて、外面的な実力行使を伴わない対立が続くことを、冷戦状態と表現する場合がある。

↓ **歴史**

**歴史** 人間社会の変遷とその記録のこと。ある時点までに起こった出来事すべてを記録することは現実的に不可能なため、歴史はその時点の価値観から取捨選択され、意味づけられたものになる。

↓ **レジリエンス**

**レジリエンス** 心理学で、変化に対処する能力。「抵抗力」「復元力」「耐久力」「再起力」などとも訳される。物理的な「弾性」「弾力性」の意味もある。

**レトリック** 文章表現の効果を高める技術。比喩、対句、倒置法など。修辞法。実質を伴わない表現上だけの言葉や表現の巧みな言葉などに対して、否定的な意味で使われることがある。

**ローカル** 一定の地方、地域に限られているさま。文化、風習、環境などに対していう。「グローバル」と対立する概念として用いられることもある。

**ロクス** 言葉、論理、理性などを表すギリシア語。  
↓**バトス**

**ロボット** 人間の代わりに何らかの作業を行う機械装置や人間を模して作られた機械、あるいは、ある作業を自動的に行う機械のこと。チエコスロバキアの作家カレル・チャペックの戯曲で用いられた造語。チエコ語で「労働」を意味するrobotaに由来する。ロボットの定義は一概ではなく、たとえばロボットアームのように人が遠隔操作する機械や、着用した人の動きをサポートするパワードスーツなどもロボットを含む場合がある。ベットロボットは人間を模しておらず、人間の代わりに作業もしないが、**ロボット**に含まれる。一方で、エスケーターや工場の重機などは、人間の代わりに作業を行うものであるが、**ロボット**には含まれない。人間の身体の一部を人工物や装置で置き換えたり埋め込んだ状態も「サイボーグ」として**ロボット**とは区別される。

**ロマン主義** 近代合理主義に対して人間の個性と感情を重視する芸術上の立場。十八世紀から十九世紀のヨーロッパで、**啓蒙思想**に対抗して起こった。  
**対** **啓蒙思想** 近代の合理的精神に基づいて、迷信・偏見・宗教的権威などを不合理なものとして取り払い、**理性の自立**を促す思想。「光で照らされること」が原義。啓蒙主義。

**わ**  
**わび** 日本のな美意識の一つ。質素な中に心の充足を見いだす精神。飾りを捨てた質素でひっそりとした趣。  
**関連 さび** 「わび」同様、日本のな美意識の一つ。古びたものを感じる静かで落ち着いた趣。